

KENWOOD

オーディオ ビデオサラウンドレシーバー

KRF-V7771D

取扱説明書

お買い上げいただきましてありがとうございました。
ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、説明の通り正しくお使いください。
また、この取扱説明書は大切に保管してください。
本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。

株式会社 ケンウッド
KENWOOD CORPORATION

本説明書の他に、取扱説明書・別冊『安全上のご注意』が付属されています。
お客様の安全のため、必ず別冊の内容もお読みの上ご使用ください。

DTSマルチチャンネル オーディオ フォーマットについて

DTS マルチチャンネル オーディオ フォーマットは、CD、LD、DVD のソフトウェアで利用できます。DTS は完全にデジタルのフォーマットであり、ほとんどの CD、LD または DVD 用プレーヤー内部ではデコードできません。このため、DTS エンコードされたソフトウェアを CD、LD または DVD プレーヤーのアナログ出力で聴こうとすると、ほとんどの場合デジタルノイズが発生します。アナログ出力が高出力パワーアンプに直接接続されている場合は、このノイズは非常にうるさい音になることもあります。この状況を避けるにはデジタル再生をするための以下のような対応が必要になります。

DTS デジタル サウンド再生をお楽しみいただくには、CD、LD または DVD 用プレーヤーのデジタル出力に 5.1 チャンネル DTS デジタル サラウンド デコーダ システムまたは DTS デジタル サラウンド デコーダ内蔵アンプにかならず接続して御使用下さい。(本レシーバーは DTS デジタルサラウンドデコーダを内蔵しています。)

本機を使用する場合のご注意

このレシーバーに接続されたシステムを正しく操作するためには、リモコンを最初にセットアップすることが必要です。このリモコンの操作モードは、システム中のレシーバーと他の機器を操作することができます。リモコンの操作、特に操作モードの切り換え方をよくお読みになり理解されるようお願いいたします。

簡単操作

サラウンド再生をするために最短でセットアップするには、☆記号の説明箇所に従って設定することをお薦めします。

2 本機を使用するにあたって

本機のリモコンは、従来のリモコンに比べて多くの操作モードをもっています。

それらのモードにより、リモコンに操作を表示したり、他のオーディオやビデオ機器を操作したりすることができます。

リモコンを有効に使用するためにもこの取扱説明書をよくお読みになり、リモコンの仕組み、操作モードの切り換え方などをよくご理解の上御使用下さい。

リモコンの仕組み、操作モードの切り換え方を知らないまま操作すると、正しく操作できないことがあります。

取扱説明書の使い方

本取扱説明書について

この取扱説明書は、以下の5章で構成されています。

はじめに	: 本機を操作する前にお読みください。
接続編	: 各機器の接続を説明します。
セットアップ編	: 本体および接続された機器をリモコンで操作するためのセットアップの手順を説明します。
操作編	: 音楽を聴く、チューナーを聴く、サラウンドの再生をする等の手順を説明します。
その他	: 故障と思われる症状の対応、定格等が記載されています。

操作説明例

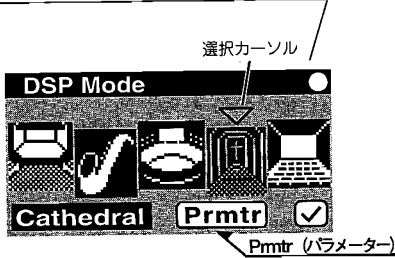
本取扱説明書では、リモコンのメニュー画面表示を左の部分に記載し、右側にはその画面表示に対する詳細操作手順、補足説明、関係または注意項目を記載しています。

リモコンメニュー画面 (左側)

詳細操作手順の説明 (右側)

操作手順番号 操作手順文 操作手順に関連するメニュー画面 左記メニュー画面に関連する細目操作手順

3 DSP Mode メニュー画面からモードを選択する



ジョイスティックでカーソルを動かし、お好みのDSPモードでENTERキーを押す

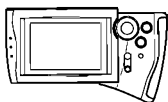
- アリーナ
Arena : 屋内のコンサートアリーナの臨場感を再現します。
- ジャズ クラブ
Jazz Club : ジャズクラブの臨場感を再現します。
- スタジアム
Stadium : 屋外スタジアムの臨場感を再現します。
- カセドラル
Cathedral : 天井の高い教会の臨場感を再現します。
- シアター
Theater : 映画館の臨場感を再現します。

- DSP 使用時に音を調整する際は、Prmtr(Parameter) アイコンを選びます。

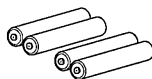
付属品

次の付属品がそろっていることを確認してください。

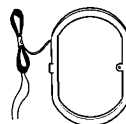
リモートコントロール (1)



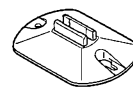
リモコン用単三乾電池 (4)



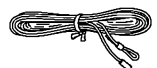
AM ループアンテナ (1)



AM ループアンテナスタンド (1)



FM室内アンテナ (1)



目次

⚠ マークのついている頁は安全確保のために必ずお読みください。

☆マーク箇所は、サラウンド再生を最短で行うための項目です

はじめに	2
本機を使用するにあたって	2
☆取扱説明書の使い方	2
付属品	2
☆目次	3
本機の特長	4
☆接続のしかた	5
オーディオ機器の接続	5
ビデオ機器の接続	6
システムコントロール接続	7
デジタル機器の接続	8
スピーカー接続/プリアウト接続	10
アンテナの接続	11
☆各部の名前と働き	12
☆リモコンをセットアップする	13
各部の名前と働き	13
お手持ちの機器にあわせてセットアップする	14
リモコンの基本的な使い方	15
リモコンの階層構造について	16
☆AV機器を操作するためのセットアップ	17
インプットセレクターに接続した機器を割り付ける	17
☆サラウンド再生のためのセットアップ	18
Macro(自動操作)のためのセットアップ	20
Macro(自動操作)のための設定をする	20
Macroの実行	22
その他のセットアップ	23
インプットレベルの設定	23
CD2 / Tape 2の設定	23
☆音楽を聴く	24
スピーカーを選ぶ	25
ヘッドホンで聴く	25
一時的に音を消す	25
表示モードを切り換える(DISPLAY MODE キー)	25
☆リモコンで機器を操作する	26
放送を聴く	28
放送を受信する	28
周波数を指定して受信する	28
放送局を記憶させる	29
記憶させた放送局を受信する	29
記憶させた放送局を順に聴く(P.CALL)	29
録音(録画)のしかた	30
☆サラウンド再生を楽しむ	32
サウンドモード	32
選択可能な再生モードについて	34
サラウンド再生時のご注意	34
サラウンド再生	35
デジタル入力の再生/アナログ入力の再生	36
サラウンド再生の状態を確認する	36
DSP モードでサラウンド効果をかける	37
☆音を調節する	38
便利な機能	39
故障かな?と思ったら	40
セットアップコード表	42
△ 定格	46
保証とアフターサービス(よくお読みください)	47

はじめに

接続編

セットアップ編

操作編

その他

本機の特長

多彩なホームシアター機能

DTS

デジタル シアター システム


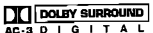
DTS(Digital Theater System)は5つの全域チャンネルと1つの低音域チャンネル(サブウーファー)を備えた5.1デジタルフォーマットで、今までにない音の透明感、最適のチャンネルセパレーション、そしてダイナミックな音の広がりを提供します。DTSモードでは、DTSのマークのついたCDやLDまたはDVDからの5.1チャンネルデジタル入力をデジタルサラウンドでお楽しみいただけます。

ご注意:

DTS対応ディスクをCDプレーヤーやLDプレーヤーまたはDTS対応DVDプレーヤーで再生すると、アナログ出力からノイズが出ることがあります。このような場合は、これらのプレーヤーのデジタル出力を本機のデジタル入力に接続してください。


ドルビー デジタル

Dolby Digital (AC-3)

 や  マークのついたレーザーディスクやドルビー デジタル (AC-3) フォーマットのデジタル信号の入力を、デジタルサラウンドで楽しむことができます。DOLBY DIGITAL (AC-3) フォーマットでは、最大5.1チャンネルの独立した信号がデジタルで入力されるので、従来のドルビーサラウンドに比べて、圧倒的に高音質で迫力ある臨場感を楽しむことができます。

ドルビー プロ ロジック ドルビー ステレオ

Dolby Pro Logic & Dolby 3 Stereo

 マークのついた映像ソフトを、映画館と同じような音響効果で再現するサラウンドシステムです。方向性強調回路を使用することにより、フロント、センター、リアの音声信号をコントロールし、音の移動感をリアルに再現します。

また、DOLBY 3 STEREOは、方向性強調回路を使用することにより、フロント、センタースピーカーだけで、音像の定位をよくし、音の移動感を再現します。

DSPサラウンドモード

本機で使用しているDSP(デジタル・サラウンド・プロセッサー)は、"Arena"、"Jazz Club"、"Stadium"、"Cathedral"、"Theater"などの高音質で調整可能な音場効果を内蔵しています。これらの音場効果は、オリジナルの信号に劇場やジャズクラブ、スタジアムなどの臨場感を与え、リスニングルームに次元の広がった感覚を与えます。

ユニバーサル IR (赤外線) リモコン

本機に付属のリモコンはケンウッドの製品だけでなく、他社の製品も操作できるマルチ機能を搭載しています。操作はリモコンにセットアップコードを登録するだけです。本リモコンは本機の状態やパラメーターを操作する18のキーアイコンを備えたドットマトリックス(128X64)LCD画面を採用しています。使いやすくするために、使用頻度の高いキーアイコンを最初の階層におき、関連アイコンを同じ画面にまとめました。

マクロプレイ

マクロ機能は複数の機器の一連の操作を自動的に行える機能です。たとえば、本機と本機に接続された機器の電源をオンにし、入力を切り換え、さらに再生を始めさせるなどです。(マクロセットアップの前に、必ず各機器のセットアップコードをリモコンに登録しておいてください。)このマクロ機能はケンウッドの機器だけでなく、他社のAV機器も操作することができます。

LCDによる簡単なサラウンドの設定と操作

この機能はLCDを利用してサラウンドの設定を簡単にし、使用しているスピーカーシステム、リスニング環境の設定をスムーズにします。

オーディオ機器の接続

接続機器は、一例が示してあります。

図のように接続してください。

関連システム機器を接続するときは、関連機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

⚠ 接続が完了するまで、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。

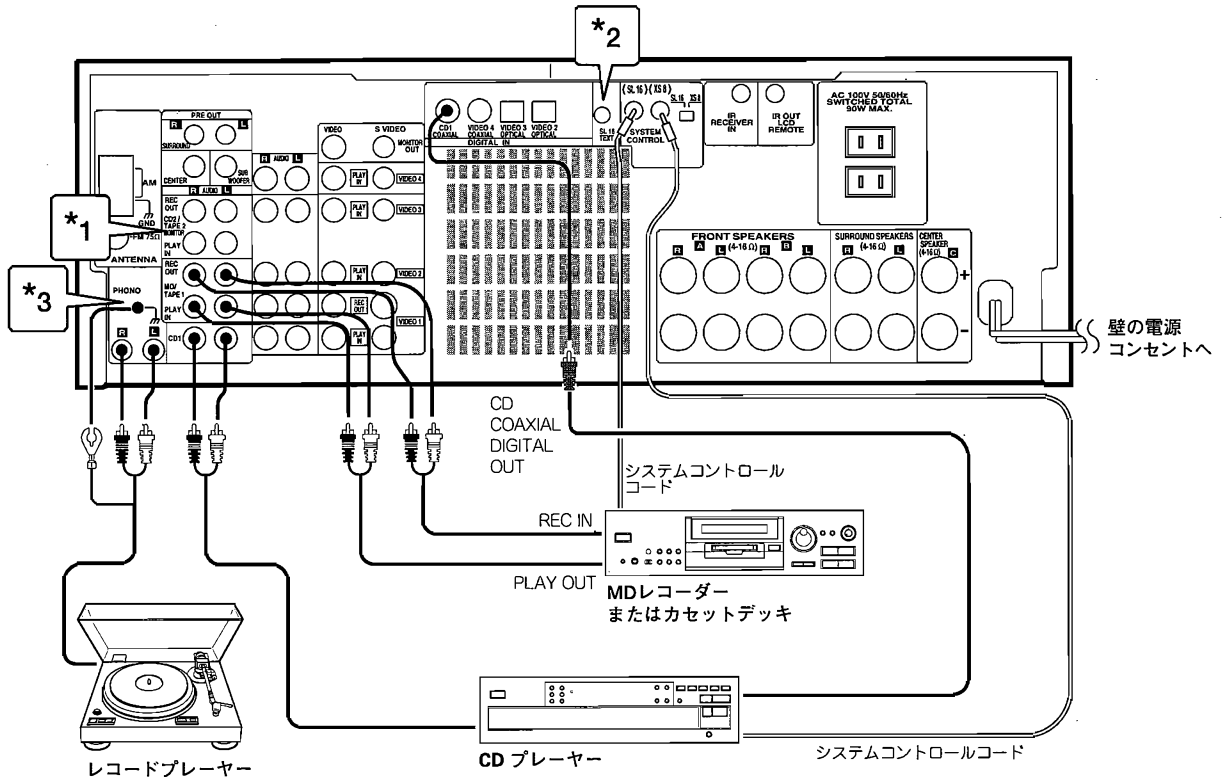
ケンウッドのオーディオコンポーネントシステムを接続したときは、再生機器側に付属のシステムコントロールコードを使用して下さい。

マイコンの誤動作について

正しく接続したのに操作ができなかったり、ディスプレイが誤った表示をする場合は、「故障かな?と思ったら」を参照してマイコンをリセットしてください。



*1 テープ モニター
 CD 2 / TAPE 2 MONITOR 端子へは2台目のCDプレーヤーまたは、カセットデッキあるいはグラフィックイコライザーの接続をします。
 CD2/TAPE 2 MONITOR 端子に接続される機器(グラフィックイコライザーを除く)にはシステムコントロールコードはつながないで下さい。



*2 テキスト
 SL-16 TEXT 端子について: SL-16TEXT端子のついているケンウッドCDプレーヤー(発売日未定)と本機を、CDプレーヤーに付属の通信ケーブルで接続してください。CD TEXT 対応ディスクを再生させたとき、ディスクタイトル、トラックタイトルをリモコン(本機に付属)に表示させることができます。本機とCDプレーヤーのSL-16/XS-8切り換えスイッチはSL-16に切り換えてください。

*3
 この端子(⊕ マークの端子)は、アナログプレーヤーなどを接続したときに雑音を少なくするためのものです。安全アースではありません。

電源コードの接続

本機の電源プラグの片側には、丸い突起マークが施されています。電源コンセントへの差し込みは、丸い突起マーク側をコンセント差し込み口の長いほうに合わせるのが一般的ですが、接続される機器やラインの状態によって様々ではありませんので、比較試験の上、良い方をお選びください。当社の製品の(○)マークは、電源プラグの突起マークと同じ極性を示しています。なお、従来通り極性にとらわれずに接続されても結構です。

⚠ 警告 ACコンセント

背面のACコンセントが供給できる電力は90Wまでです。接続する装置の消費電力の合計が90Wを超えないようにしてください。火災の原因になります。電熱器具、ヘアドライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。また、供給電力以内であっても、テレビなど電源を入れたときに大電流が流れる機器は使用しないでください。

⚠ 注意 放熱ファンについて

大きな出力で使用しているときは放熱ファンが回転します。確実に放熱をするために本機の背面と壁の間隔は十分(10cm以上)に確保してください。

1. すべての接続コードは確実に差し込んでください。差し込みが不完全だと、音がでなくなったり、雑音が発生することがあります。
2. 接続コードを抜き差しする場合は、必ず電源コードを電源コンセントから抜いてください。電源コードを抜き差しすると、誤動作または破損の原因となります。

ビデオ機器の接続

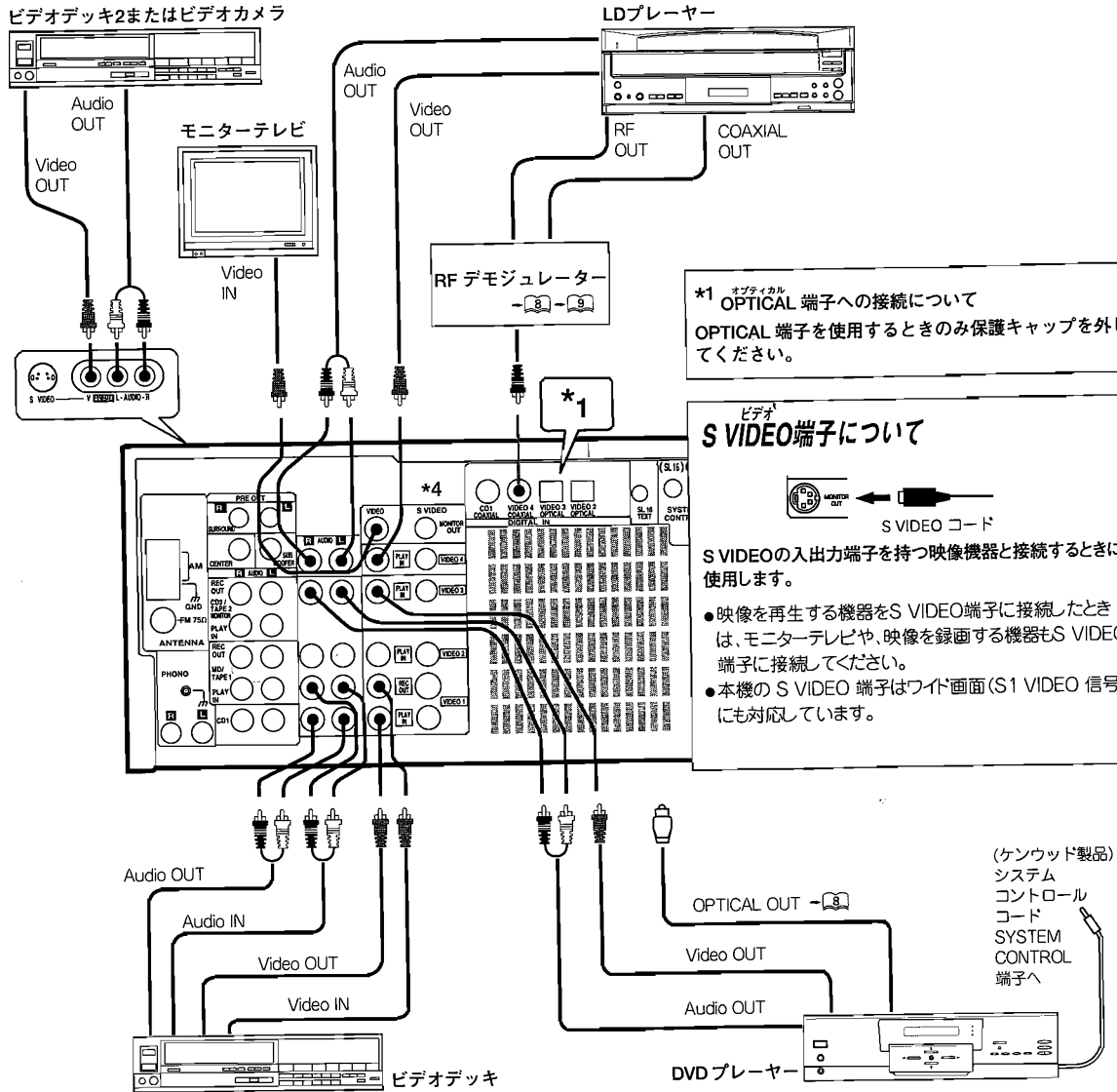
接続機器は、一例が示してあります。

図のように接続してください。

関連システム機器を接続するときは、関連機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

⚠ 接続が完了するまで、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。

ケンウッドのオーディオコンポーネントシステムを接続したときは、再生機器側に付属のシステムコントロールコードを使用して下さい。



*1 オプティカル OPTICAL 端子への接続について
OPTICAL 端子を使用するときのみ保護キャップを外してください。

ビデオ S VIDEO端子について

← S VIDEO コード

S VIDEOの入出力端子を持つ映像機器と接続するときを使用します。

- 映像を再生する機器をS VIDEO端子に接続したときは、モニターテレビや、映像を録画する機器もS VIDEO端子に接続してください。
- 本機のS VIDEO端子はワイド画面(S1 VIDEO信号)にも対応しています。

(ケンウッド製品) システムコントロールコード SYSTEM CONTROL 端子へ

● Video CD 対応の CDプレーヤーを使用して映像の出力をするときは、VIDEO1 から VIDEO4 のいずれかに接続して下さい。このときはシステムコントロールコードを接続しないで下さい。

DTSに関する注意事項

DTS デジタルサラウンドは独立した5.1チャンネルのデジタルオーディオフォーマットで、CD、LD、そしてDVDソフトウェアに使われていますが、たいていのCD、LD、DVD プレーヤーではデコードできませんし、また再生もできません。このため、DTSでエンコードされたソフトウェアを再生すると、CD、LDまたはDVDプレーヤーのアナログステレオ出力から雑音が出ることがあります。これらのアナログステレオ出力がアンプまたはレシーバーに直接接続されている場合にはご注意ください。

システムコントロール接続

ケンウッドのオーディオコンポーネントシステムを接続したとき、システムコントロールコードを接続することで、便利な機器相互間のシステムコントロール動作が可能になります。

ケンウッドのシステムコントロールには、2種類のモードがあります。下記の端子記号の組み合わせ例にしたがって接続してください。

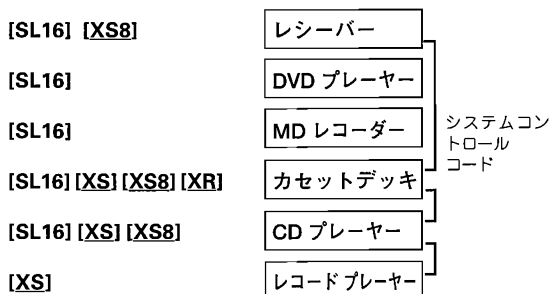
[XS8]のモード：[XS]、[XS8]、[XR]の組み合わせができます。

[SL16]のモード：[SL16]のみの組み合わせです。

本機は [SL16] と [XS8] の両方に対応しています。出荷時の状態は [SL16] です。[XS8] のモードにするときは、「[XS8] と [SL16] の切り換えかた」にしたがってモードを切り換えてください。

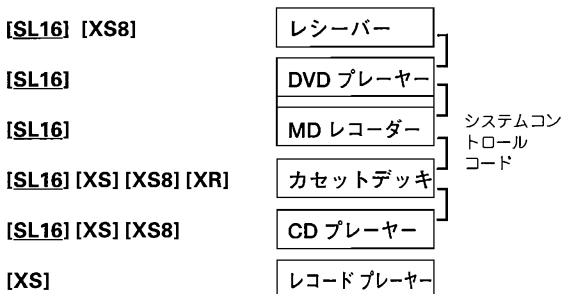
[XS8] モードでの接続例

下線部が選ばれているシステムコントロールモードを示します。



[SL16] モードでの接続例

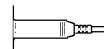
下線部が選ばれているシステムコントロールモードを示します。



- システムコントロールを使うには、各機器を各機器の端子に正しく接続してください。CDプレーヤーを使う場合はCD 1端子に、カセットデッキまたはMDレコーダーを使う場合は、MD/TAPE 1端子に接続してください。1台以上のCDプレーヤーを接続する場合などは、CD 1端子につないだ1台だけをシステムコントロールできます。
- CDプレーヤー、カセットデッキには、[SL16] モードに対応している機器と対応していない機器があります。対応していない機器をシステム接続したいときは、システムコントロールモードを [XS8] モードで接続してください。
- MDレコーダーには、システムコントロールに対応していない機器があります。またMDをデジタル入力で使用するときはシステムコントロールの機能は働きません。これらの機器はシステムコントロール接続はできません。



1. [SL16] と [XR]、[XS]、[XS8] 等とのシステム動作の組み合わせはできません。もし、このような組み合わせであった場合は、システムコントロールコードは接続しないでください。システムコントロールを接続しなくても、通常の性能、操作性が損なわれることはありません。
2. 当社指定以外の機器との接続は、故障の原因となりますのでおやめください。
3. システムコントロールプラグは根元まで差し込んでください。



システムコントロール動作について

リモートコントロール:

本機に付属するシステムリモコンで、ソース機器を操作することができます。

オートマッチオペレーション([XR]の機器を除く):

ソース機器側の再生が始まると、本機の入力切替が自動的にその機器の入力切替に切り換わります。

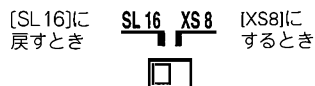
シンクロ録音([XR]の機器を除く):

CD、MD、アナログディスクを録音するときに、プレーヤーの再生が始まると、連動して録音をスタートさせることができます。

[XS8] と [SL16] の切り換えかた

本体後面のシステムコントロールスイッチで簡単にモードを切り換えることができます。

この操作はすべての接続が完了してから行ってください。



- これらの切り換えをしても、各種の記憶内容は保持されます。
- システムコントロールモードを切り換えた後は、新しい設定内容を確認するため、一度電源をオフしてから、もう一度電源をオンにしてください。

ケンウッドのオーディオ機器をセットアップコードで操作できます

- システムコントロール接続が完了したら必ず各機器のセットアップコードを登録してください。
- リモコンで操作できるケンウッドのオーディオ機器で、システムコントロールに対応していない(または他のシステムコントロールした機器に連動しない)ものをお持ちの場合は、セットアップコードを登録することで、システムコントロールコードを接続しなくても、本機に付属のリモコンでこれらの機器を操作することができます。セットアップコードを登録するには、「インプットセレクターに接続した機器を割り付ける」をご覧ください。

デジタル機器の接続

デジタル入力端子は DTS、ドルビーデジタル (AC-3) または PCM 信号 (CD フォーマット) のデジタル信号を出力できる機器を接続します (入力信号は自動的に検出されます)。ここでは LD プレーヤーと DVD プレーヤーの接続のしかたを一例として説明します。

図のように接続してください。

関連システム機器を接続するときは、関連機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

⚠ 接続が完了するまで、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。

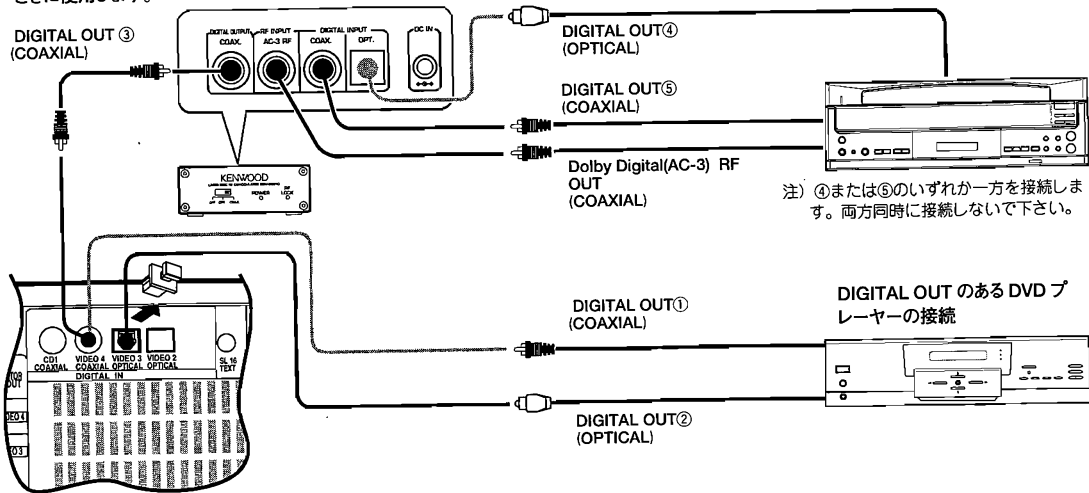
デジタル入力端子とコネクタの関係

デジタル インプット DIGITAL INPUT を使用する際には、入力端子と接続コードの関係に注意して接続を行ってください。

DIGITAL INPUT 入力端子	接続可能なコードのコネクター
VIDEO2	OPTICAL コネクター
VIDEO3	OPTICAL コネクター
VIDEO4	COAXIAL コネクター
CD1	COAXIAL コネクター

レーザーディスク RF デモジュレーター (DEM-9991D)

注)ドルビーデジタル(AC-3) フォーマットのLDを再生するときに使用します。



LD プレーヤーの接続

ドルビーデジタル(AC-3) RF OUTのあるLDプレーヤーを接続する場合には、LDプレーヤーをレーザーディスクRFデモジュレーターに接続します。

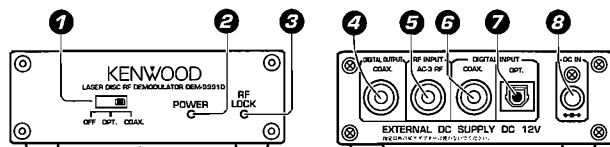
- LD プレーヤーをケンウッドの レーザーディスクRFデモジュレーター (DEM-9991D) (別売) に接続する。
 - デモジュレーターを接続する必要がなく、直接LDプレーヤーからの DIGITAL OUT の接続する場合は、④(OPTICAL) または ⑤(COAXIAL) のどちらかに接続します。
- デモジュレーターをレーザーの DIGITAL IN (VIDEO4 COAXIAL) に接続する。
- ビデオ信号とアナログのオーディオ信号を VIDEO4 の端子に接続します。(接続については「ビデオ機器の接続」をご覧ください。) - ⑥

DVDプレーヤーの接続

DVDへの接続には①(COAXIAL)または②(OPTICAL)を使用します。

- DVDの DIGITAL OUT②(OPTICAL) をレーザーのDIGITAL IN (VIDEO3 OPTICAL) に接続する。
- ビデオ信号、Sビデオ信号およびアナログのオーディオ信号を VIDEO3 の端子に接続します。(接続については「ビデオ機器の接続」をご覧ください。) - ⑥

レーザー ディスク デモジュレーター
LASER DISC RF DEMODULATOR DEM-9991D (別売)



デモジュレーターのACアダプターは本機やデモジュレーター、アンテナ等から遠ざけておいてください。

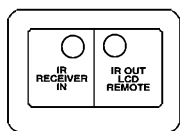
- ① **POWER スイッチ**
パワー
 電源をオフ/オン (OPT./COAX.の位置) します。
 ●OPT./COAX.スイッチをどちらにセレクトしていても、ドルビーデジタルRF入力があるときは、自動的にドルビーデジタルRF入りに切り換わります。
- ② **POWER インジケーター**
パワー
 パワースイッチ (①) がオン設定してあるときに赤色に点灯します。
- ③ **RF LOCK インジケーター**
ロック
 ドルビーデジタル (AC-3) RF信号がAC-3RF INPUT端子 (⑤) に入力されたときのみ点灯します。
- ④ **DIGITAL OUTPUT COAX.(COAXIAL)**
デジタル アウトプット コアキシャル
 この端子をレーザーのVIDEO4 COAXIAL (DIGITAL IN)端子へ接続します。
 Dolby Digital (AC-3) RF信号がRF INPUT (AC-3 RF INPUT) (⑤) 端子から入力しているときにDolby Digital (AC-3) coaxial デジタル信号を出力します。

- ⑤ **RF INPUT AC-3 RF(Dolby Digital RF)**
インプット ドルビー デジタル
 この端子をLDプレーヤーのDolby Digital (AC-3) RF OUTPUT端子に接続します。
- ⑥ **DIGITAL INPUT COAX.(COAXIAL)**
デジタル インプット コアキシャル
 この端子をLDプレーヤーのCOAXIAL OUTPUT端子に接続します。
- ⑦ **DIGITAL INPUT OPT.(OPTICAL)**
デジタル インプット オプティカル
 この端子をLDプレーヤーのOPTICAL OUTPUT端子に接続します。
 ●RF INPUT (AC-3 RF) 端子と DIGITAL INPUT 端子とから同時に入力があるときは RF INPUT (AC-3 RF) が優先されます。
- ⑧ **DC IN (12V)端子**
 デモジュレーターに付属の、ACアダプターにつないだインレット式の電源コードを接続します。他のすべての接続を終えてから、電源コードを壁のコンセントに接続します。

接続編

ファイアールレーザー
IR RECEIVER 専用端子について

本レーザーの背面には、リモコン用送受信機 (IR RECEIVER) のための端子がついています。この端子は、IR RECEIVER (発売日未定) を接続して、レーザー本体をラックの中あるいはガラスドアなどの内側に設置していてもレーザーのリモコン操作を可能にするものです。



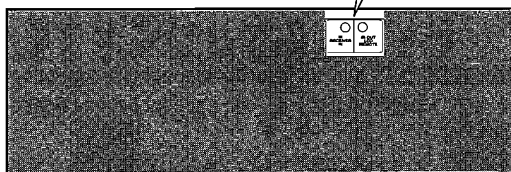
ファイアールレーザー
IR RECEIVER の切り換え方

リモコン用受信部 (送信部) を本体の送受信部にするか、IR RECEIVER にするかの切り換えをします。

本体がオンの状態で、本体のDISPLAY MODE キーを2秒以上押し

押すたびに切り換わります。

IR RECEIVER OFF ↔ IR RECEIVER ON



スピーカー接続/プリアウト接続

図のように接続してください。

関連システム機器を接続するときは、関連機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

⚠ 接続が完了するまで、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。

① コードの被覆をむく



② ゆるめる



③ コードを差し込む



④ しめる



●スピーカーコードの+と-は絶対にショートさせないでください。

●左右を逆にしたり、極性を間違えて接続しますと、楽器などの位置がはっきりせず、不自然な音になります。正しく接続してください。

バナナプラグの接続

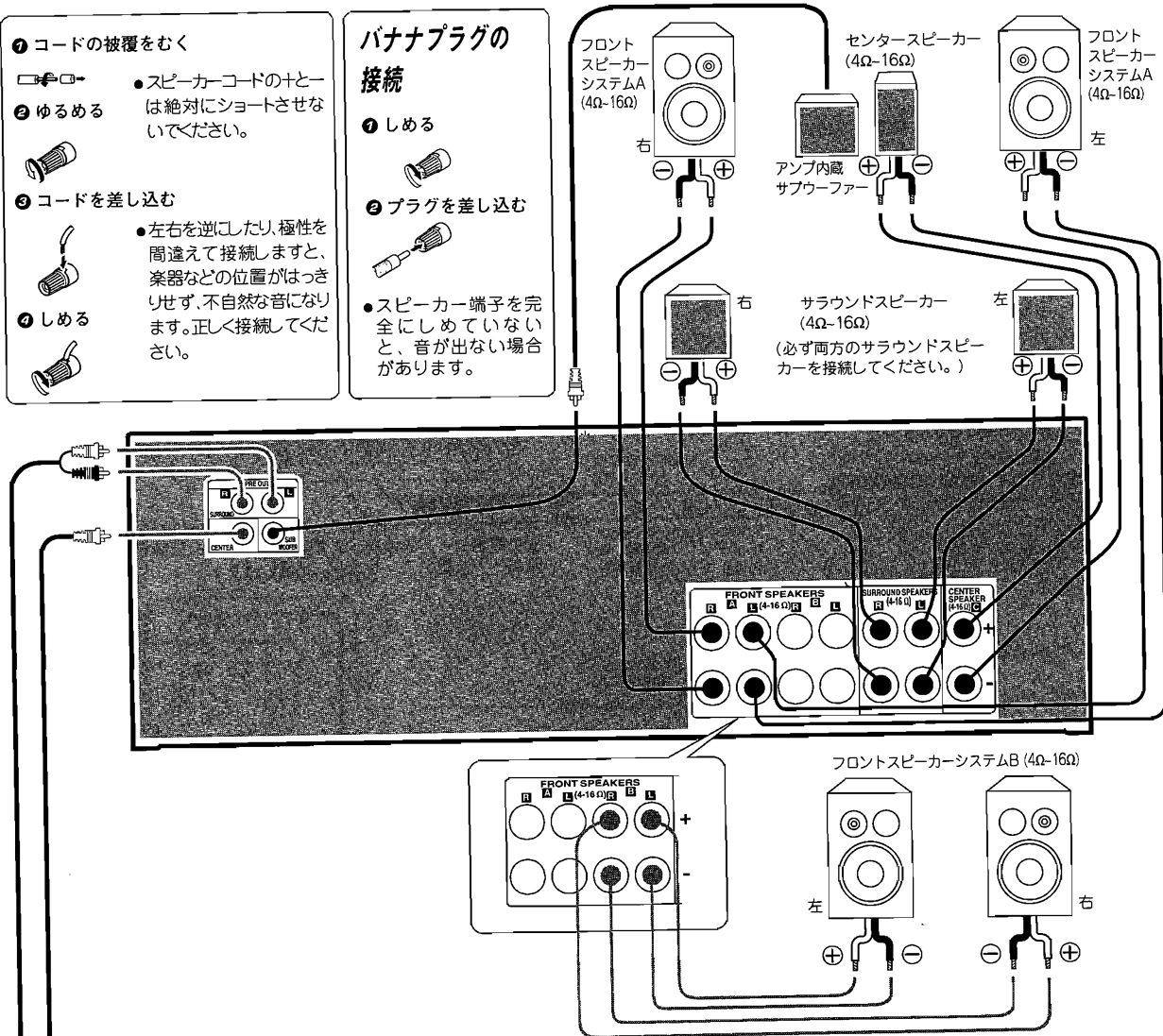
① しめる



② プラグを差し込む



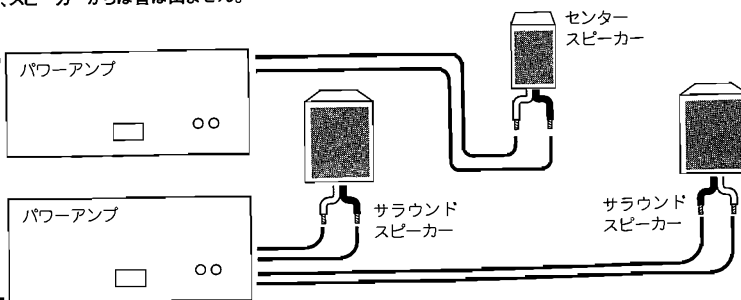
●スピーカー端子を完全にしめていないと、音が出ない場合があります。



プリアウトの接続

本機はPRE OUT端子を備えています。これらの端子はいろいろな目的で使われますが、下記の例のようにパワーアンプを接続する必要があります。スピーカーコードをPRE OUT端子に接続しても、スピーカーからは音は出ません。

PRE OUT端子を使用するときは、^{スピーカーズ}SPEAKERSのAキーをオンにしてください。
^{サブウーファー}SPEAKERSのAキーをオフにしているときは、SUBWOOFER端子から音は出ません。



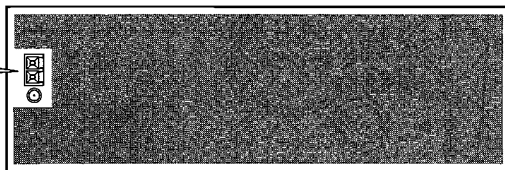
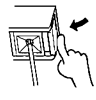
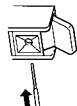
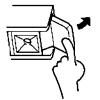
アンテナの接続

図のように接続してください。

⚠ 接続が完了するまで、電源コードのプラグをコンセントに差し込まないでください。

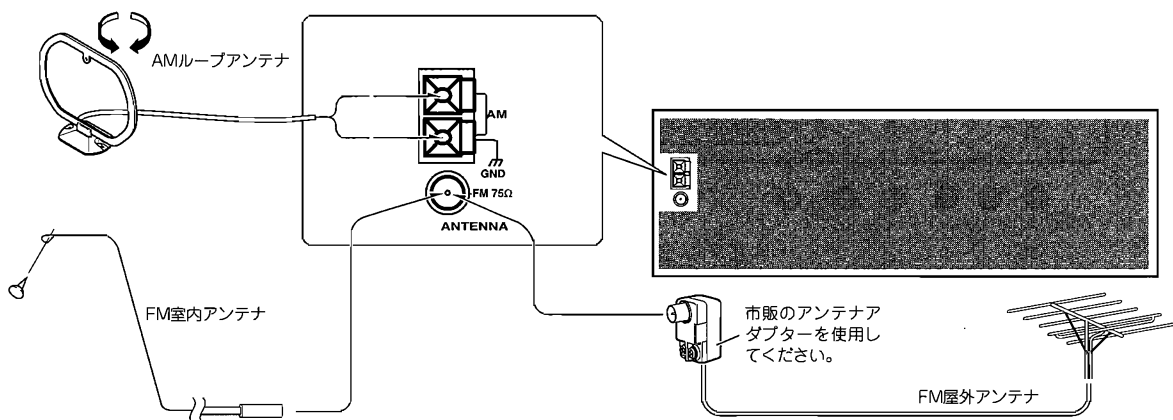
アンテナ端子の接続のしかた

- ① レバーを押す ② コードを差し込む ③ レバーを戻す



AMループアンテナの接続

付属のアンテナは室内用です。本機、TV、スピーカーコード、電源コードからなるべく離れたところで受信状態の一番よい方向に向けます。



FM 室内アンテナ

付属のアンテナは室内用で、一時的に使用するものです。安定した受信のためには、屋外アンテナ（市販）の使用をおすすめします。屋外アンテナを接続したら、室内用アンテナは取り外してください。

FM 屋外アンテナ

75Ω同軸ケーブルを使って屋内へ引き込み、FM75Ω端子に接続します。

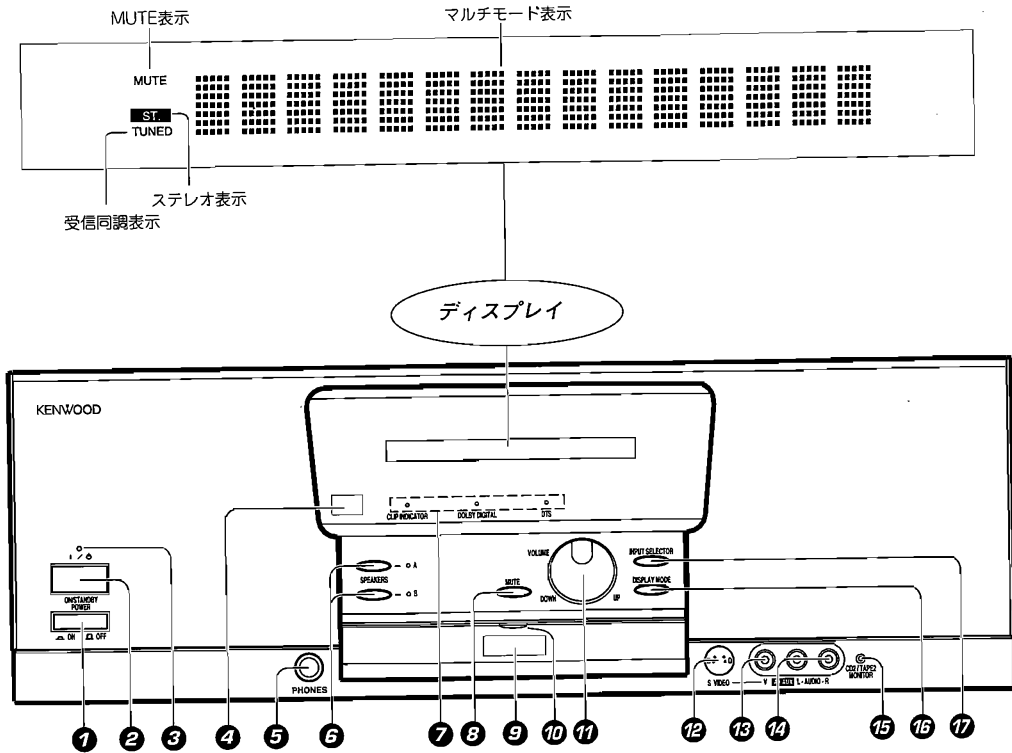
⚠ 注意 屋外アンテナ設置上のご注意

アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

電源をオンにしてみましょう

以上で接続は完了しました。さっそく下記の手順にしたがって、電源をオンにしてみましょう。

- ① 全ての接続が正しくされているかを確認します。
- ② 電源コードをACコンセントにさす。
- ③ 本体の POWER キーをオンにする。
- ④ 本体の ON/STANDBY キーをオンにする。



1 POWER キー

メイン電源のオン/オフをします。

2 ON/STANDBY (I/O) キー

スタンバイ/オンを切り換えます。

3 STANDBY インジケータ

スタンバイ状態を表示します。

4 リモコン受信部

リモコンからの受信をします。

5 PHONES 端子

ヘッドホンで聴くときに使います。

6 SPEAKERS キー

SPEAKERS A、SPEAKERS B のオン/オフ切り換えをします。 - [25]

7 インジケータ

クリップ インジケータ
CLIP INDICATOR: アナログ信号をデジタル信号に変換する時に入力が大きすぎると点灯します。 - [23]

ドルビー デジタル
DOLBY DIGITAL: Dolby Digital が動作時に点灯します。 - [34]

DTS: DTS が動作時に点灯します。 - [34]

8 MUTE キー

一時的に音を消します。 - [25]

9 リモコン送信部

リモコンへの送信をします。

10 リモコン送受信インジケータ

リモコンから受信の時及びリモコンへ送信の時に点灯します。

11 VOLUME コントロールつまみ

音量を調整します。

12 S VIDEO 入力端子 (AV AUX)

AV 機器の S-VIDEO からの出力信号を接続します。

13 VIDEO 入力端子 (AV AUX)

AV 機器の映像出力信号 (RCA) を接続できます。

14 AUDIO (L,R) 入力端子 (AV AUX)

AV 機器の音声出力信号 (RCA) を接続できます。

15 CD2/TAPE 2 MONITOR インジケータ

CD2/Tape2 (MONITOR) を使用するとき点灯します。 - [30]

16 DISPLAY MODE キー

本体の表示を切り換えます。 - [25]

このキーを2秒以上押しつづけると、IR RECEIVER 切り換えモードになります。IR RECEIVER ON になってしまったときは、OFF に設定し直してください。 - [9]

17 INPUT SELECTOR キー

押すたびに入力を切り換えます。

- TUNER
- CD1
- MD/Tape1
- VIDEO1
- VIDEO2
- VIDEO3
- VIDEO4
- AV AUX
- PHONO

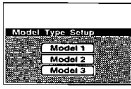
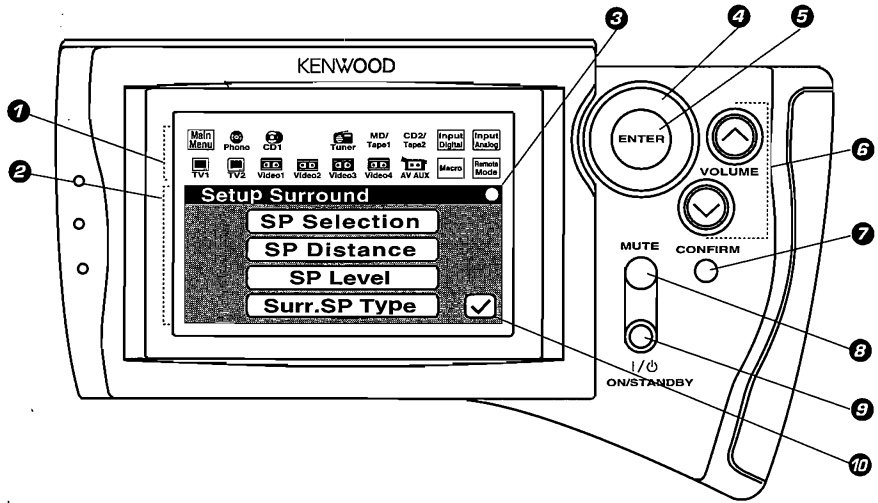
スタンバイ STANDBY 表示について

本機のスタンバイインジケータが点灯中は、メモリー保護のため、微弱な通電が行われています。これをスタンバイ状態といいます。このときは、リモコンで本体をオンできます。

各部の名前と働き

リモコン：赤外線方式

リモコンを操作する際には、あらかじめリモコンの「モデルタイプセットアップ」をしてください。初めて電池を入れた直後に次のメニュー画面になります。 - [14]

① セグメント画面

固定アイコンの表示をする画面です。

メイン メニュー

- **Main Menu** アイコン：Main Menu 画面を選ぶときに使用します。 - [16]

フォノ

- **Phono** アイコン
- **CD1** アイコン
- **Tuner** アイコン
- **MD/Tape1** アイコン
- **CD2/Tape2** アイコン
- **Video1** アイコン
- **Video2** アイコン
- **Video3** アイコン
- **Video4** アイコン
- **AV AUX** アイコン

それぞれの機器の入力に切り換えて、操作するときに使います。(PhonoとAV AUXは入力切り換えのみ) - [26] ~ [27]

ビデオ

- **TV1** アイコン
- **TV2** アイコン

それぞれのモニターを操作するときに使います。 - [27]

インプット デジタル

- **Input Digital** アイコン：デジタル入力を再生するときに選びます。 - [35] ~ [36]

インプット アナログ

- **Input Analog** アイコン：アナログ入力を再生するときに選びます。 - [24] ~ [36]

リモート モード

- **Remote Mode** アイコン：入力を切り換えずに別の機器を操作したいときに使います。 - [30]

② メニュー画面

各種操作キーアイコンやレベルを表示します。

③ 通信状態表示

通信状態を表示します。

④ JOY STICK

アイコンを選ぶときに使います。4方向に動きます。

⑤ ENTER キー

選んだアイコンを確定するときに押します。

⑥ VOLUME コントロール(アップ、ダウン)キー

音量を調節します。

⑦ CONFIRM キー

現在表示している項目を確認します。

⑧ MUTE キー

一時的に音を消します。

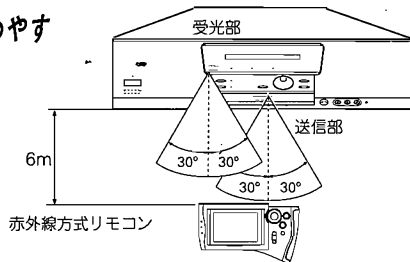
⑨ I/O (ON/STANDBY) キー

本機およびシステムコントロールコードで接続された機器をONまたはSTANDBY状態にします。

⑩ Return (✓) アイコン

前のメニュー画面に戻るときに使用します。

操作範囲のめやす



1. 付属の乾電池は、動作チェック用のため、寿命が短いことがあります。ご了承ください。
2. 操作できる距離が短くなったら、すべて新しい電池と交換してください。
3. リモコン受信部に直射日光や高周波点灯(インバーター方式など)の蛍光灯の光および白熱燈の光が当たると、正しく動作しないことがあります。このような場合、誤動作を避けるために設置場所を変えてください。
4. 操作範囲より外でリモコンを操作すると、リモコンのディスプレイが正しく表示されないことがあります。

お手持ちの機器にあわせてセットアップする

始めて電池を入れるときおよび、リモコンのバックアップが消えたときは必ずこの操作を行います。

準備しましょう

- 本体の^{パワー}POWERキーおよび^{オン}ON/^{スタンバイ}STANDBYキーを押して電源をオンにします。

電池交換の表示

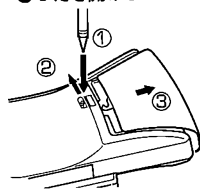


電池の残量が少なくなった警告が表示されたときは、すべての電池を新しいものと交換してください。

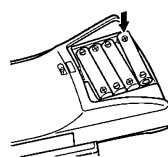
Model Type Setup (モデルタイプセットアップ)

1 電池を入れる

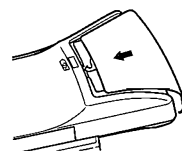
① ふたを開ける



② 電池を入れる

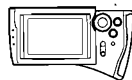


③ ふたを閉める

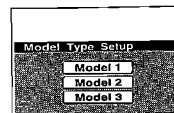


- 単三乾電池4本を指示されたマークに従い正しく入れる。
- 設定した内容のメモリーを保護するために、電池の入れ換えを30秒以内にすませる。

2 表示を確認する

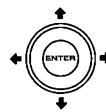
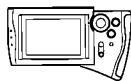


モデル タイプ セットアップ
"Model Type Setup"
メニュー画面が表示される



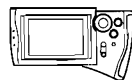
- 電池を交換する際にリモコンのデータがバックアップされているときは、"Model Type Setup" のメニュー画面は表示されません。このときは、手順②③④の操作は不要です。

3 "Model 3" にカーソルを移動する



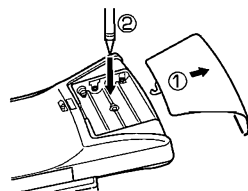
- 選びたいアイコンに沿って4方向に動かします。カーソルを移動するとアイコンは、反転して点滅します。

4 ENTERキーを押して決定する



- アイコンを選んだ後は決定するために必ず ENTER キーを押してください。

リモコンをリセットするには



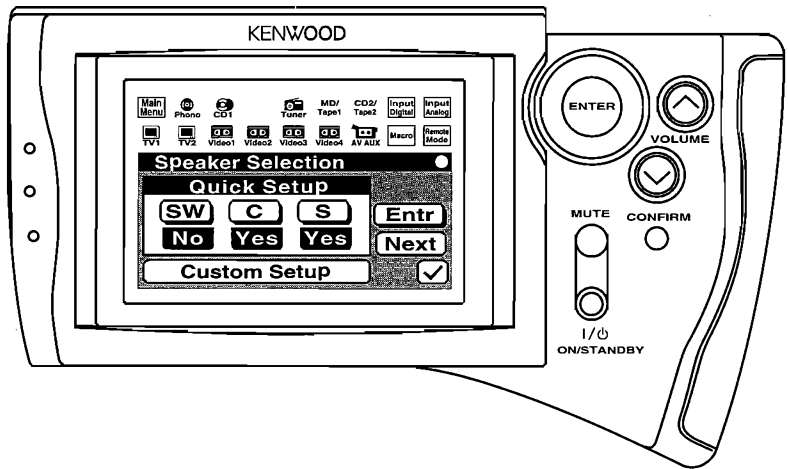
- ① ふたを開けて電池を外す
 - ② 先端の尖ったものでリセットボタンを数秒間 押す
- この操作により設定した内容はすべて消去されます。

リモコンの基本的な使い方



本リモコンは、何も操作がされないときは、数秒後に画面表示が消えます。再び画面表示を出したいときは、いずれかのキーを押してください。

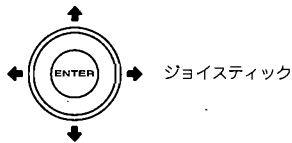
- 画面表示が消えている状態で、ON / STANDBY キーを押してもレシーバーはオン/オフしません。



基本的な使い方

リモコンの使い方のパターンを覚えましょう。

1 カーソルを選びたいアイコンまで移動する

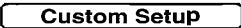


ジョイスティック

アイコンについて:



影付き枠アイコン: その画面で機能の切り換えができた時、そのアイコンの機能が働いたりします。



一重枠(影なし)アイコン: 選ぶと下位の階層のメニュー画面が開けます。

2 選んだアイコンを確定する



ENTERキー

メニュー画面上に **Entr** アイコンがあり、そのアイコンを選ぶときがあります。このときにも、必ずその後にENTERキーを押して確定します。

- 説明を簡単にするため、この後のページからはこの手順を省略しています。

機能

通信状態表示について



- ↑ レシーバーへ送信中
- ↓ レシーバーから受信中
- × 送受信禁止

現在の状態を確認する

CONFIRM



CONFIRM キーを押すと、そのメニュー画面の設定内容などを確認することができます。

前のメニュー画面に戻る

リターン Returnアイコン



このアイコンを選ぶと、一つ前の画面(上位階層のメニュー画面)になります。

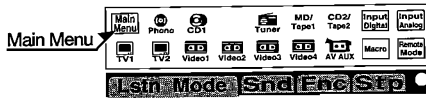
- 一番上のメニュー画面に戻るには、Main Menu アイコンを選びます。

リモコンの階層構造について

本リモコンは多くの機能を表示できるように階層構造を持っています。

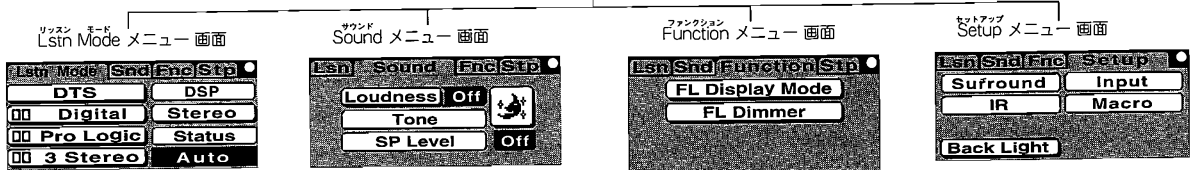
一例としてセットアップをする際には、下記のようなメニュー画面から各メニュー画面へ進みます。

- ① **Setup** メニュー画面が含まれている **Main Menu** 画面を出すには、まずセグメント画面の **Main Menu** アイコンを選びます。

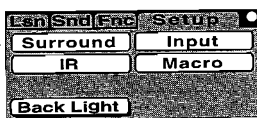


Main Menu 画面には、"**Lstn Mode**"(Listen Mode)、"**Sound**"、"**Function**"、"**Setup**" のメニュー画面があります。
Main Menu 画面の "**Lsn**"、"**Snd**"、"**Fnc**"、"**Stp**" のアイコンへカーソルを移動することによってそれぞれのメニュー画面が表示されます。

Main Menu 画面には次の4種類のメニュー画面があります。



- ② **Main Menu** 画面のなかで **Stp** アイコンへカーソルを移動すると **Setup** メニュー画面が表示されます。



- 影付き枠で表示されているアイコン(ここでは Back Light のアイコン)を選ぶとそのアイコンの機能が働きます。
- 一重枠で表示されているアイコン(ここでは Surround、IR、Input、Macro のアイコン)にはそれぞれに下位の階層のメニュー画面があります。

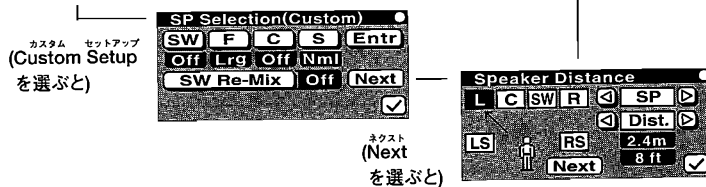
- ③ **Surround** アイコンを選ぶと **Setup Surround** メニュー画面が現れます。



- ④ **SP Selection** のアイコンを選ぶと

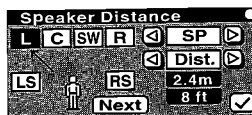


- ⑤ **Next** を選ぶと



カスタム **Setup** (Custom Setup) を選ぶと)

- ⑥ **Next** (Next) を選ぶと



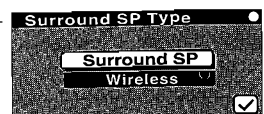
- ⑦ **Next** を選ぶと



戻るときは

- ☑ アイコンを選ぶと上位階層のメニュー画面に戻ります。
- 一番トップのメニュー画面に戻るには **Main Menu** アイコンを選びます。

- ⑧ **Next** を選ぶと



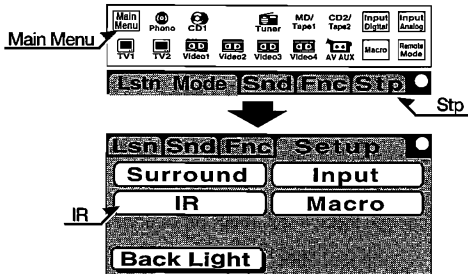
本体やリモコンに表示されるインプットセクターと背面に接続した機器との関連づけを設定します。

インプットセクターに接続した機器を割り付ける

セットアップ手順概略

- セットアップ
- 1 Setupメニュー画面を開いてIRアイコンを選ぶ
 - 2 インプットセクターに、接続した機器を割り付ける
 - 3 接続した機器をすべて割り付ける

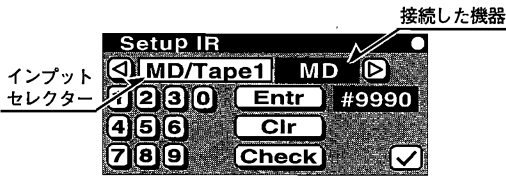
1 セットアップ Setupメニュー画面を開いてIRアイコンを選ぶ



- メイン メニュー
- 1 Main Menu アイコンを選ぶ
 - 左記の画面になっていれば、手順①は不要です。
- セットアップ
- 2 Stp アイコンを選ぶ
 - 3 IR アイコンを選ぶ

2 インプットセクターに、接続した機器を割り付ける

インプットセクターの表示を選んでおき、接続した機器のセットアップコードをセットアップコード表から探し、該当する4ケタ数字を入力して割付けます。



- 1 ◀ または ▶ アイコンを選び、インプットセクターを選ぶ
- CD1 (CD 2)
MD/Tape 1 (Tape 2)
TV1
TV2
Video 1
Video 2
Video 3
Video 4
- ④ または ▶ アイコンを選ぶたびに切り換わります
- 2 接続した機器をセットアップコード表から探し、コードを [1] ~ [0] アイコンを使用して入力する
 - 3 チェック Check アイコンで入力したセットアップコードが使用可能か確認する
 - 選択により機器の電源が入ります。但し、システムコントロール用のセットアップコードを入力する機器と一部の他社製品は電源が入りません。
 - クリアするときには クリア Clr アイコンを選ぶ
 - 4 エンター Entr アイコンで入力したセットアップコードを確認する
 - セグメント画面に割り付けた機器のアイコンが表示されます。

本レシーバーにシステムコントロールコードで接続してあるケンウッドのオーディオ機器用にセットアップコードを入力する際は、システムコントロール操作が可能のように次のコードを入力して下さい。

- カセットデッキ : 7990
- CDプレーヤー : 8990
- MDレコーダー : 9990

すでに割り付けた機器を削除するには

割り付けた機器のインプットセクターを選び、セットアップコード 9999を入力する

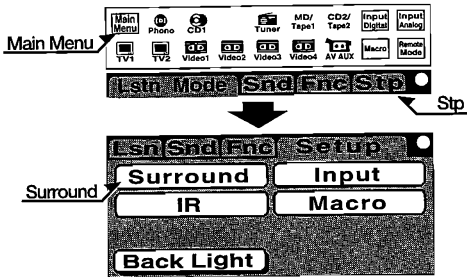
3 接続した機器をすべて割り付ける

- 2 の操作を繰り返し行い、接続した機器を全てインプットセクターに割付けます。

セットアップ手順概要

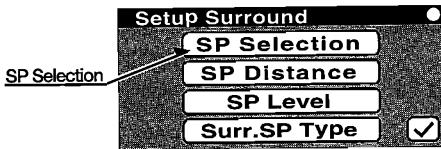
- | | |
|--|---|
| <p>1 セットアップ
Setupメニュー画面を開いてSurroundアイコンを選ぶ</p> <p>2 スピーカーセレクション
SP Selectionを選ぶ</p> <p>3 スピーカー
Speakerの選択</p> | <p>4 スピーカー ディスタンス
Speaker Distance の設定</p> <p>5 スピーカー レベル
Speaker Level の調整</p> <p>6 サラウンド スピーカータイプ
Surround SP Type の設定</p> |
|--|---|

1 セットアップ サラウンド Setupメニュー画面を開いてSurroundアイコンを選ぶ



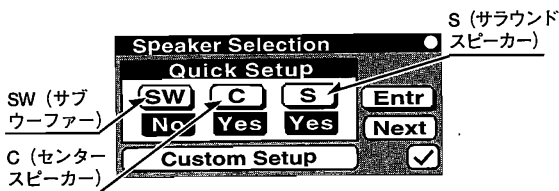
- ① メインメニュー アイコンを選ぶ
- 左記の画面になっていれば、手順①は不要です。
- ② セットアップ
Stpアイコンを選ぶ
- ③ サラウンド
Surroundアイコンを選ぶ

2 スピーカーセレクション SP Selectionを選ぶ



3 オン オフ スピーカーの On/Off または サイズ を選ぶ

手軽に設定するには Quick Setup を選びます



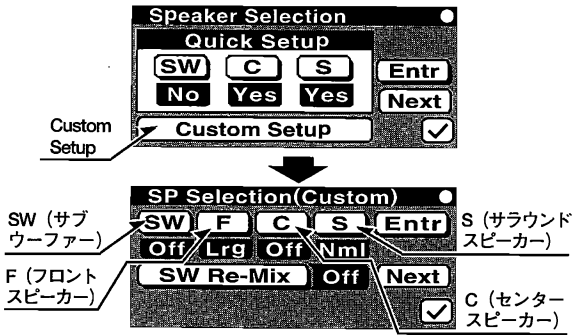
- ① 各スピーカーの設定をする
YES : 接続している
NO : 接続していない
- 確定時には ^{エンター} Entr(Enter) アイコンを選びます。
- ② ^{ネクスト} Next アイコンを選び次の手順へ進む

次ページへ続く

3 つづき

詳細に設定するには Custom Setup を選びます

広帯域のスピーカーをお持ちのときは、カスタムセットアップで Lrg(大) に設定することをおすすめします。



1 SP Selection 画面で Custom Setup を選ぶ

2 各スピーカーの設定をする

- Lrg : 大きいサイズのスピーカー
- Nml : 標準サイズまたは小さいサイズのスピーカー
- On : 使用する
- Off : 使用しない

● 確定時には Enter アイコンを選びます。

スピーカーの大きさと On/Off の関係のリスト

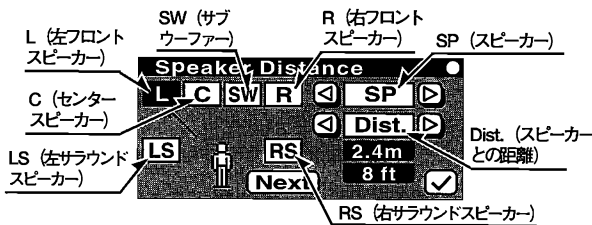
F	SW	C	S
Lrg	On / Off	Off / Nml / Lrg	Off / Nml / Lrg
Nml	On	Off / Nml	Off / Nml

● SW Re-Mix を On にすると F、C と S の低域成分が SW に付加されます。

3 Next アイコンを選び 次の手順へ進む

4 Speaker Distance の設定をする

各スピーカーの遅延時間を最適値に調整します。



1 SP (スピーカー) を [Left] または [Right] のアイコンで選ぶ

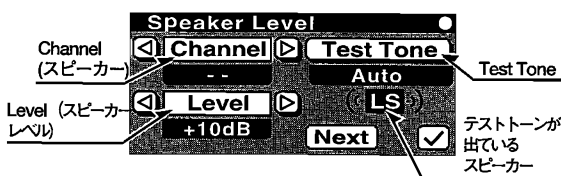
2 Dist. (聴く位置からスピーカーまでの距離) を [Left] または [Right] のアイコンで選ぶ

3 [Left] [Right] を繰り返し全てのスピーカーについての設定をする

4 Next アイコンを選び 次の手順に進む

5 Speaker Level を調整する

テストトーン(ザーという音)を聞きながら、各スピーカーのテストトーンが同じ音量レベルになるように調整します。



1 Test Tone のアイコンを選び Auto にする

● Auto にするとテストトーンが一定間隔でスピーカーからスピーカーへ移ります。

2 調節したいスピーカーにテストトーンがきたら、Level を [Left] または [Right] のアイコンで調整する

● 手順①で Manual を選んだ場合は Channel アイコンの [Left] または [Right] アイコンでスピーカーを選び Level を調整します。

3 Next アイコンを選び 次の操作へ進む

6 Surround SP Type を設定する

Surround Speaker が Wired か Wireless かを選びます。



Surround SP アイコンを選ぶたびに切り換わります。

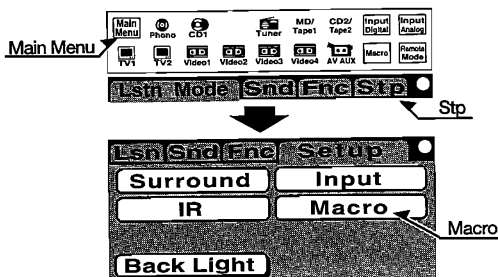
- Wireless の場合は自動的に信号の遅延分を、他のスピーカーに付加して補正をします。
- サラウンドスピーカーと本体とをスピーカーコードで接続するときは、Wired の表示にします。

設定手順概略

- セットアップ
- 1 Setup メニュー画面を開いてMacro アイコンを選ぶ
 - 2 再生するインプットセクターを選ぶ
- マクロ エディット カスタム
- 3 Macro Edit:Custom 1 メニュー画面での選択
 - 4~6 設定する機器の Edit メニュー画面での設定

マクロプレイ機能では、リモコンで複数の機器を連続して操作できるように設定します。この設定をした後は、一連の動作を自動的に行えます。前もって操作したい機器のセットアップコードを入力しておいてください。

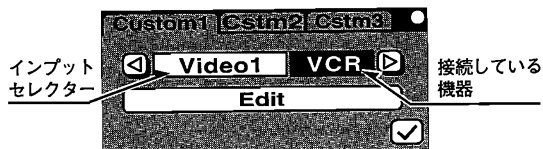
1 セットアップメニュー画面を開いてMacroアイコンを選ぶ



- 1 Main Menu アイコンを選ぶ
 - 左記の画面になっていれば、手順①は不要です。
- 2 Stp アイコンを選ぶ
- 3 Macro アイコンを選ぶ

2 Custom1/Cstm2/Cstm3 画面での操作

Custom1、Custom2、Custom3 の3種類のマクロ登録設定が出来ます。



インプットセクターのVideo1 にビデオデッキ (VCR) が割り付けてあるときの例

- 1 ◀ または ▶ アイコンで再生するインプットセクター (機器) を選ぶ
 - ◀ または ▶ アイコンを選ぶたびにかわります。
 - VIDEO1←→VIDEO2←→VIDEO3←→VIDEO4←→CD1←→MD/Tape1←
- 2 Edit アイコンを選ぶ
 - Video1 に接続した機器が割り付けられていないと、Edit 画面は表示されません。

3 Macro Edit:Custom 1 画面での操作

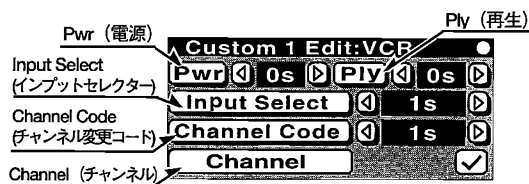


- 2 で選んだ機器の各種タイミング設定をするために該当する機器のアイコンを選ぶ

デバイス
Device : 接続した機器 (デバイス) の設定をする画面を開きます。
TV : TV の設定をする画面を開きます。

4 カスタム エディット Custom 1 Edit :VCR 画面での操作

手順 2 で ^{デバイス}Device アイコンを選ぶと下記の画面になります。

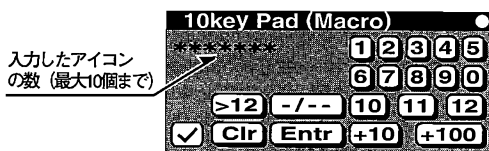


- 各コードを出力するタイミング時間は次のようになります。
 → -- ← 0s(秒) ← → 1s ← → 2s ← → …… ← → 15s ←
 "--" はコードを出力しないことを、また "0s" はマクロ実行キーをオンと同時にコードを出力します。
- Edit : …… のメニュー画面はインプットセクターによってVCR、LD、DVD、CD、MD、Tape のEditメニュー画面が表示されます。

各時間設定後に動作確認をします。動作しないときは設定時間を長くします。

- 1 ^{パワー}Pwr(Power) オン時間の設定をする
^{パワー}Pwr(Power)アイコンの ◀ または ▶ アイコンを使います。
 - Pwr アイコンを選んで動作を確認する。
- 2 ^{プレイ}Ply(Play) 開始の時間を設定する
^{プレイ}Ply(Play)アイコンの ◀ または ▶ アイコンを使います。
 - Ply アイコンを選んで動作を確認する。
- 3 ビデオデッキ (VCR) への ^{インプット}Input Select (入力切り換え) コードの出力タイミング時間を設定する
^{インプット}Input Selectアイコンの ◀ または ▶ アイコンを使います。
 - Input Select アイコンを選んで動作を確認する。
- 4 ビデオデッキの ^{チャンネル}Channel を選ぶために10key Pad メニュー画面を開く
^{チャンネル}Channel アイコンを選ぶ
 - 手順 5 にて設定する。
- 5 ビデオデッキの ^{チャンネル}Channel Code の出力タイミング時間を設定する
^{チャンネル}Channel Codeアイコンの ◀ または ▶ アイコンを使います。
 - Channel Code アイコンを選んで動作を確認する。

5 キー バッド マクロ 10key Pad (Macro) での操作

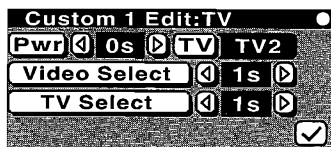


- クリア
 Clr : 入力した * を全て消去する際に使用
- エンター
 Entr : 数値を選択した後に確定が必要なとき使用
- >12 : 13チャンネル 以上の値を入力する際に使用
- /- : 一桁入力か二桁入力かの切り換え時に使用

- 1 手順 2 で ^{チャンネル}Channel アイコンを選んで、^{キー}10key Pad (Macro)画面を開く
- 2 ^{チャンネル}チャンネルを設定する(この場合はビデオデッキのチャンネル)
 (例) 11チャンネル : +10 アイコン、1 アイコン
 - チャンネルの入力のしかたはビデオデッキのメーカーによって違います。お手持ちのビデオデッキの取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 3 アイコンを選び確定する
 を選ぶと前メニュー画面に戻ります。
 - 設定したチャンネルのコードを出力するには手順 2 で ^{チャンネル}Channel Code のアイコンを選びます。

6 カスタム エディット Custom 1 Edit :TV 画面での操作

手順 3 で TV アイコンを選ぶと下記の画面になります。



- ^{パワー}Pwr : TVの電源のコード出力タイミング時間の設定
- ^{TV}TV : TV1 または TV2 どちらの制御をするかの選択
- ^{ビデオ}Video Select : TV の Video Select コード出力タイミング時間の選択
- ^{TV}TV Select : TV の TV Select コード出力タイミング時間の選択

時間設定後に動作確認をします。動作しないときは設定時間を長くします。

- 1 ^{パワー}Pwr(Power) On 時間の設定をする
^{パワー}Pwr(Power)アイコンの ◀ または ▶ アイコンを使います。
 - Pwr アイコンを選んで動作を確認する。
- 2 TV1 または TV2 どちらの制御をするかの選択
- 3 ^{ビデオ}Video Select コード出力タイミング時間の選択を設定する
^{ビデオ}Video Selectアイコンの ◀ または ▶ アイコンを使います。
 - Video Select アイコンを選んで動作を確認する。
- 4 ^{TV}TV Select コード出力タイミング時間を設定する
^{TV}TV Selectアイコンの ◀ または ▶ アイコンを使います。
 - TV Select アイコンを選んで動作を確認する。

マクロ

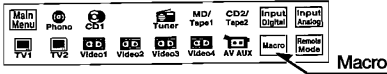
Macro の実行

手順概略

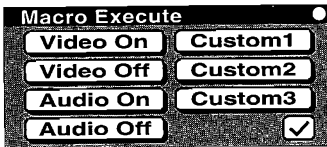
- 1 Macroアイコンを選んでMacro Execute メニュー画面をだす
- 2 Macro Execute メニュー画面での操作

「Macro(自動操作)のための設定をする」の項目を設定しておく
とマクロ機能を使用して自動再生ができます。 -120

1 セグメント画面のMacroアイコンを選ぶ



2 Macro Executeメニュー画面でMacroを実行する



操作をするためにアイコンを選びます

ビデオ オン: ビデオ(映像)機器の電源をオンまたはオフにします。
(選択する前の状態が反転します。)
同時に本レシーバーの電源をオンにします。
(選択する前の状態がオフであれば変わりません。)

ビデオ オフ: 本レシーバーの電源をオフにします。
(ビデオ(映像)機器の電源と本レシーバーの電源をいずれもオフにするためには、Video On でビデオ(映像)機器をオフにしてからVideo off で本レシーバーの電源をオフにします。)

オーディオ オン: オーディオ(音声)機器の電源をオンにします。(システムコントロール接続の場合)

オーディオ オフ: オーディオ(音声)機器の電源をオフにします。(システムコントロール接続の場合)

カスタム Custom 1: Macro Custom 1 を実行します。

カスタム Custom 2: Macro Custom 2 を実行します。

カスタム Custom 3: Macro Custom 3 を実行します。

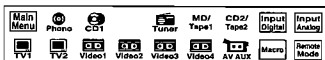
インプットレベルの設定

インプットレベルの設定

パネル面の クリップ インジケータ CLIP INDICATOR が点灯する場合は、インプットレベルの設定をかえます。

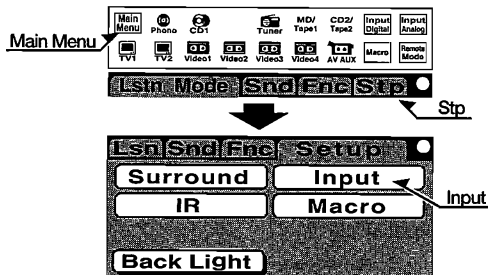
- 設定はすべてのインプットセレクターで可能です。

1 設定するインプットセレクターアイコンを選ぶ



- CD1、Video2、Video3、Video4 を調整するときは、セグメント画面のインプット アナログ Input Analog を選び、アナログ入力の状態にしてから手順2へ進みます。

2 セットアップ画面を開いてインプット Setup メニュー画面を開いてInput アイコンを選ぶ



- ① メイン メニュー Main Menu アイコンを選ぶ
 - 左記の画面になっていれば、手順①は不要です。
- ② セットアップ Stp アイコンを選ぶ
- ③ インプット Input アイコンを選ぶ

3 インプットレベルを設定する



- 手順2で選んだインプット セレクターのレベルを0dB、-3dB または -6dB から選ぶことができます。
- インプット レベル Input Level アイコンを選ぶたびに切り換わります。
- クリップ インジケータ CLIP INDICATOR が点灯する場合は、-3dB または -6dB に設定します。
- アナログ入力の際のみ設定できます。

テープ CD2/Tape2 の設定

テープ モニター CD2/TAPE2 MONITOR の入力端子を CD2 モードで使用するか、Tape2 (Monitor) モードで使用するかの設定をします。



セットアップインプット Setup Input のメニュー画面において設定する

- CD2/Tape2 アイコンを選ぶたびに切り換わります。
- CDプレーヤーを使用する場合は、テープ CD2/Tape2 を CD2 に設定します。その他の場合は、テープ モニター Tape2 (Monitor) に設定します。
- CD2 に設定したときは Rec Out は出力されません。

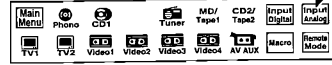
CD または MD を再生してみましょう

準備しましょう

- ① 「接続のしかた」を済ませる。
- ② 「セットアップ編」の章を済ませる。

デジタル入力とアナログ入力の切り換えについて

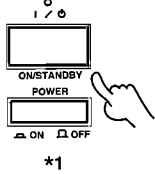
デジタルで再生するとき以外は、入力をアナログに切り換えるために **Input Analog** を選びます。



切り換えについては、「デジタル入力の再生/アナログ入力の再生」を参照して下さい。 → 36

1 POWER キー、ON/STANDBY キーを押しオン状態にする

本体操作



リモコン操作



- *1: POWER キーを ON してから ON/STANDBY キーを押します。
- CD プレーヤー または MD レコーダーに再生ソフトを入れる。

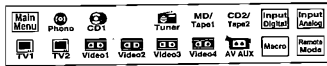
2 聴きたいソースを選ぶ

本体操作



リモコン操作

聴きたいソースのアイコンを選ぶ



本体での操作の場合は次のように切り換わります。

- Tuner (周波数表示)
- CD 1
- MD/Tape 1
- VIDEO 1
- VIDEO 2
- VIDEO 3
- VIDEO 4
- AV AUX
- PHONO

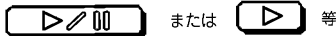


システムコントロール動作をさせるには、「セットアップ編」章の設定を済ませる必要があります。

3 選んだソースを再生する

本体操作

各ソース機器の操作

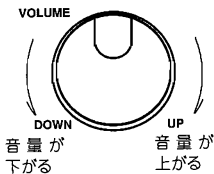


リモコン操作

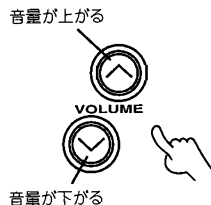
再生アイコンを選ぶ

4 音量を調節する

本体操作



リモコン操作



- **VOLUME CONTROL** つまみを早くまわすと、変化量が大きくなります。(AI VOLUME 機能)
- **CD2/TAPE 2 MONITOR** がオン(点灯)になっているときは、入力ソース(本体に表示されているソース)の音を聴くことはできません。

スピーカーを選ぶ

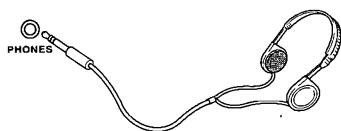
本体操作



- A オン(A インジケータ点灯) : スピーカー A で聴く時
 B オン(B インジケータ点灯) : スピーカー B で聴く時
 A+B オン(A,B 両 インジケータ点灯) : スピーカー A とスピーカー B で聴く時
 A+B オフ(A,B 両 インジケータ消灯) : 両方のスピーカー 共音をださない

ヘッドホンで聴く

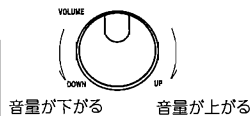
① ヘッドホンをつなぐ



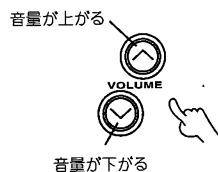
- ドルビーデジタル(AC-3) または DTS をヘッドホンで聴くときは、^{リスン}モードメニュー画面で ^{ステレオ}Stereo アイコンを選んでステレオで再生するか、あるいはスピーカーをオフして再生してください。

② 音量を調節する

本体操作

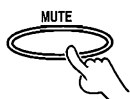


リモコン操作

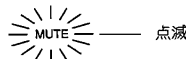


一時的に音を消す

本体操作



リモコン操作



点滅

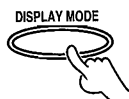
解除するには

もう一度 ^{ミュート}MUTE キーを押すか
ボリュームを操作します。

表示モードを切り換える (DISPLAY MODE キー)

ディスプレイ部分の表示モードを切り換えるには次の手順で行います。

本体操作



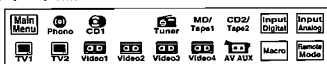
DISPLAY MODE キーを押す
押すたびに切り換わります。

→ 接続機器 アナログ/デジタル表示 → 入力端子: 接続機器 表示 → リッスンモード 表示 →
 (例) DVD DGTL VIDEO3: DVD (例) DOLBY DIGITAL
 (VIDEO3 DGTL) (VIDEO3:)

() 内は接続された機器が割り付けられていないときの表示です。

操作手順概略

- 1 操作する機器のアイコンをセグメント画面の中から選ぶ



- インプットセクターがかわります。

- 2 操作機器のメニュー画面での操作

メーカーの機種により操作方法が異なる場合がありますので、機種に応じた操作例を参照してください。

- あらかじめ「インプットセクターに接続する機器を割り付ける」を済ませておく必要があります。
- 各機器の操作メニュー画面は、セットアップコードによって異なります。この項目では、代表的な操作メニュー画面を表示してあります。
- 詳しい操作方法については各機種の取扱説明書をご覧ください。

ケンウッドCDプレーヤーの操作

- あらかじめ CDプレーヤーを割り付けておく必要があります。

- 1 CD1 アイコンを選ぶ

- インプットセクターがCD1になります。

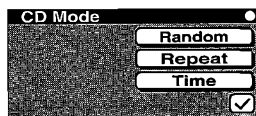
- 2 操作するアイコンを選ぶ



メニュー画面例:
システム用セットアップコードを入力時

モード

- 3 CD Mode メニュー画面で操作するアイコンを選ぶ



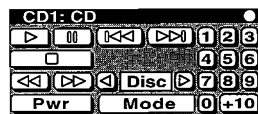
他社CDの操作

- あらかじめ CDプレーヤーを割り付けておく必要があります。

- 1 CD1 アイコンを選ぶ

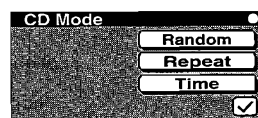
- インプットセクターがCD1になります。

- 2 操作するアイコンを選ぶ



モード

- 3 CD Mode メニュー画面で操作するアイコンを選ぶ



MD レコーダーの操作

- あらかじめ MD レコーダーを割り付けておく必要があります。

- 1 MD/Tape1 アイコンを選ぶ

- インプットセクターが MD になります。

- 2 操作するアイコンを選ぶ

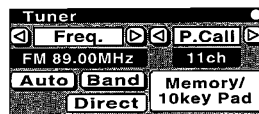


チューナーの操作

- 1 Tuner アイコンを選ぶ

- インプットセクターがチューナーになります。

- 2 操作するアイコンを選ぶ



カセットデッキの操作

- あらかじめ カセットデッキを割り付けておく必要があります。

- 1 MD/Tape1 アイコンを選ぶ

- インプットセクターが Tape1 になります。

- 2 操作するアイコンを選ぶ



ワン タッチ エディット
O.T.E. : One Touch Edit

ケンウッドカセットデッキの操作上のご注意

カセットデッキのモデルにより、レーザーに付属のリモコンで CCRS 操作ができない場合があります。この場合は、カセットデッキ本体の CCRS キーで操作してください。

DVD プレーヤーの操作

●あらかじめ DVD プレーヤーを割付けておく必要があります。

1 Video 1/2/3/4 アイコンを選ぶ

●インプットセクターが Video 1/2/3/4 になります。

2 操作するアイコンを選ぶ



Pwr : Power
Clr : Clear
Ret. : Return

●Scan, Skip, Slow 画面があります。

TV の操作

●あらかじめ TV を割付けておく必要があります。

1 TV1/2 アイコンを選ぶ

2 操作するアイコンを選ぶ



Pwr : Power

LD プレーヤーの操作

●あらかじめ LD プレーヤーを割付けておく必要があります。

1 Video 1/2/3/4 アイコンを選ぶ

●インプットセクターが Video 1/2/3/4 になります。

2 操作するアイコンを選ぶ



Pwr : Power

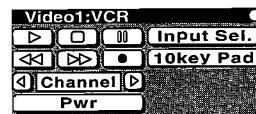
ビデオデッキ (VCR) の操作

●あらかじめ ビデオデッキ を割付けておく必要があります。

1 Video 1/2/3/4 アイコンを選ぶ

●インプットセクターが Video 1/2/3/4 になります。

2 操作するアイコンを選ぶ



Pwr : Power

AV AUX の操作

AV AUX アイコンを選ぶ

- インプットセクターが AV AUX になります。
- 操作アイコンは表示されません。

Phono の操作

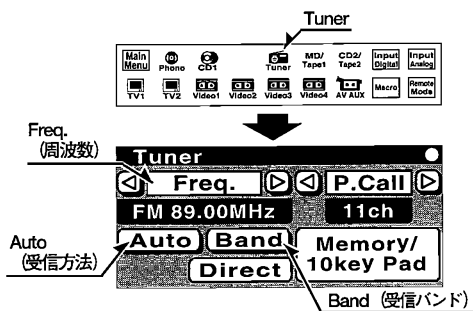
Phono アイコンを選ぶ

- インプットセクターが PHONO になります。
- 操作アイコンは表示されません。

放送を受信する

チューナー

Tunerメニュー画面を開く

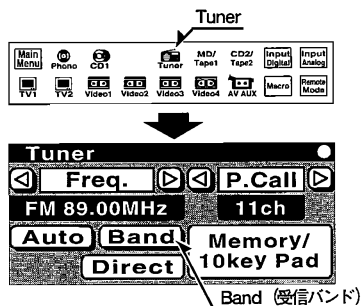


- ① Tuner アイコンを選ぶ
- ② 受信バンドを選ぶ
 バンド
 Band アイコンを選ぶたびに切り換わります
 FM ↔ AM
- ③ 受信方法を選ぶ
 オート
 Auto アイコンを選ぶたびに切り換わります
Auto (オート選局) ↔ **Auto** (マニュアル選局)
- 通常はAuto(オート選局)にしておきます
 電波が弱く、雑音が多いときは、マニュアル選局(Manual)にします。
 (マニュアル受信のとき、ステレオ放送はモノラル受信になります。)
- ④ 放送局を選ぶ
 フリクエーション
 Freq. アイコンの ◀ または ▶ を使って選びます
 オート選局のとき : 一回押すと自動的に次の放送局を受信します。
 マニュアル選局のとき : 受信するまで繰り返し押します。または押しただまにします。

周波数を指定して受信する

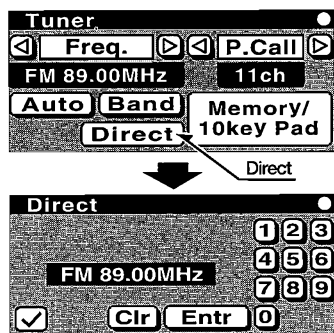
チューナー

1 Tunerメニュー画面を開いて受信バンドを選ぶ



- ① Tuner アイコンを選ぶ
- 以前受信していた周波数が表示されます。
- ② 受信バンドを選ぶ
 バンド
 Band アイコンを選ぶたびに切り換わります
 FM ↔ AM

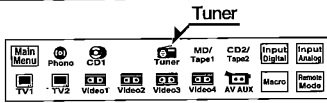
2 周波数を指定する



- ① ダイレクト
Direct アイコンを選ぶ
- ② 受信する周波数を数字アイコンで入力する
 周波数の入力例：
 AM 810 kHz **8** **1** **0** Entr
 AM 1260 kHz **1** **2** **6** **0** Entr
 FM 81.2 MHz **8** **1** **2** **0** Entr
 FM 89 MHz **8** **9** **0** **0** Entr
- 間違えたときは、周波数表示が数秒間点滅します。このときは、手順②をもう一度行います。

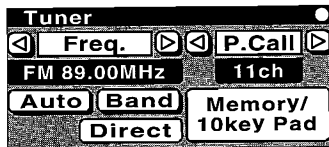
放送局を記憶させる

1 チューナー Tuner アイコンを選んで入力切換をチューナーにする



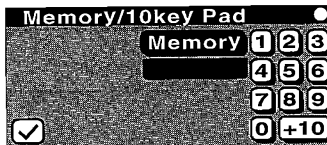
- 以前受信していた周波数が表示されます。

2 放送局を選ぶ



- ① 受信バンドを選ぶ
Band アイコンを選ぶ
- ② 放送局を選ぶ
Freq.アイコンの ◀ または ▶ アイコンで選ぶ
- ③ Memory/10key Pad アイコンを選ぶ

3 選んだ放送局を登録する



- ① Memory アイコンを選ぶ
選ぶたびに切り換わります
Memory (登録モード) ↔ Memory (呼び出しモード)
 - ② 1~40 のプリセットナンバーをつける
数字アイコンを選ぶ順序は...
"15"に記憶させるとき... +10 5
- 手順②、③を繰り返して、それぞれの放送局を記憶させます。
 - 同じ番号に重ねて記憶させると、新しい記憶内容に変更されます。

記憶させた放送局を受信する

Memory/10key Padメニュー画面での操作

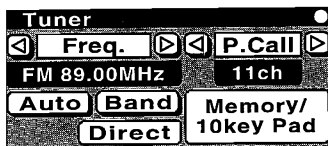


- ① Memory アイコンを選んで呼び出しモード (Memory) にする
 - ② 目的の放送局のプリセットナンバー(最大40まで)を選ぶ
数字アイコンを選ぶ順序は...
"20"なら... +10 +10 0
- 10の桁を選び間違えたときは、+10 アイコンを数回押し、元の表示に戻してから入力し直してください。

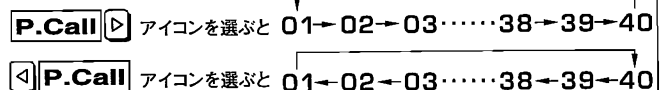
記憶させた放送局を順に聴く (P.CALL)

プリセットコール

Tuner 画面での操作



P.Call 表示部分の ◀ または ▶ アイコンを選ぶ

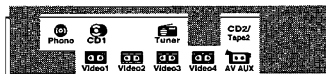


- アイコンを選ぶたびに、記憶されている放送局が順に切り換わります。選んだままにすると、約0.5秒間隔で、放送局をスキップします。

ケンウッドの録音機器で録音するときは、接続した機器に合わせてインプットセクターを^{テープ}Tape1 または MD に設定すると、シンクロ録音が可能です。

音楽ソースを録音する

① 録音するソースを選ぶ



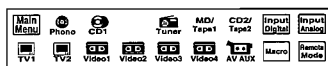
アイコンは割り付けている機器により異なります。

② MD またはカセットデッキを録音待機状態にする

- ① セグメント画面のリモートモードアイコンを選ぶ
- ② MD /Tape1 のアイコンを選ぶ
- ③ MD またはカセットデッキの操作アイコンを選び録音待機状態にする
- ④ ソースを再生し、録音を開始する

- **Remote Mode** アイコンを選ぶとインプットセクターに割り付けた CD1、Video1、Video2、Video3、MD/Tape1 等のアイコンが数秒間点滅します。
点滅しているアイコンを選ぶと、インプットセクターを切り換えずに選んだ機器の操作ができます。(Remote Mode アイコンは、インプットセクターを切り換えずに録音機器を待機状態にするときなどに使います。) 点滅しているアイコン以外のアイコンを選ぶと、インプットセクターが切り換わります。
- カセットデッキまたは MD レコーダーの録音については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

テープコピーをする (TAPE 1 → TAPE 2)



- ① 本機のインプットセクターを MD/Tape 1 にする
- ② MD/TAPE 1 に接続したカセットデッキで再生を開始し、CD2/TAPE 2 MONITOR に接続したカセットデッキで録音を開始する

デジタル→アナログ録音時のご注意

本機にデジタルの入力がある場合に、(サラウンドを)ステレオで再生すると、デジタルで入力した音をアナログで録音できます。
以下手順で操作してください。

- ① 録音機器を録音可能状態に設定する
 - ② レシーバーのインプットセクターを再生するソース機器に設定する
 - ③ 希望のソフトを再生する
 - ④ リモコンの Input Digital アイコンを操作して Manual に設定する
 - ⑤ Lstn Mode メニュー画面で Stereo を選択する
 - ⑥ 録音 (画) するソフトを最初から再生して、録音 (画) する
- 録音中に CD2/Tape 2 (Monitor) に切り換えしないでください。録音が途切れることがあります。

CD2/Tape 2 (Monitor) について

セットアップメニュー画面で CD2/Tape 2 (Monitor) アイコンを Tape 2 (Monitor) に設定しておくこと以下の操作ができます。

ただし、これらの機能はアナログの入出力についてのみの機能となります。

デジタルで再生しているときに、固定セグメントの CD2/Tape 2 アイコンを選ぶとアナログ入力に切り換わり、ノイズが出る場合がありますのでご注意ください。



Tape2(Monitor) の設定メニュー画面

リモコンの設定については「CD2/Tape2 の設定」を参照して下さい。

- 23 -

CD2/Tape2 の使い方

リモコン固定セグメントアイコン



本体インプットセクター

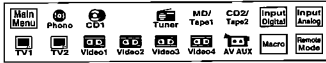


本機の CD2/TAPE 2 MONITOR 端子にはカセットデッキやグラフィックイコライザーなどを接続することができます。グラフィックイコライザーを接続したときは、CD2/Tape2 は Tape2 に設定して、固定セグメントの CD2/Tape 2 アイコンをオンにしてご使用ください。

また3ヘッドシステムのカセットデッキが CD2/TAPE 2 MONITOR 端子に接続されているときは、録音中に今録音された音をモニターすることができます。CD2/Tape 2 をオン/オフすることにより、ソースの音と録音された音を比較することができます。機器の操作については接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

デジタルで再生しているときは、CD2/Tape2(Monitor) 機能は働きません。デジタルで再生しているときに、CD2/Tape2(Monitor) を選ぶとアナログ入力に切り換わります。

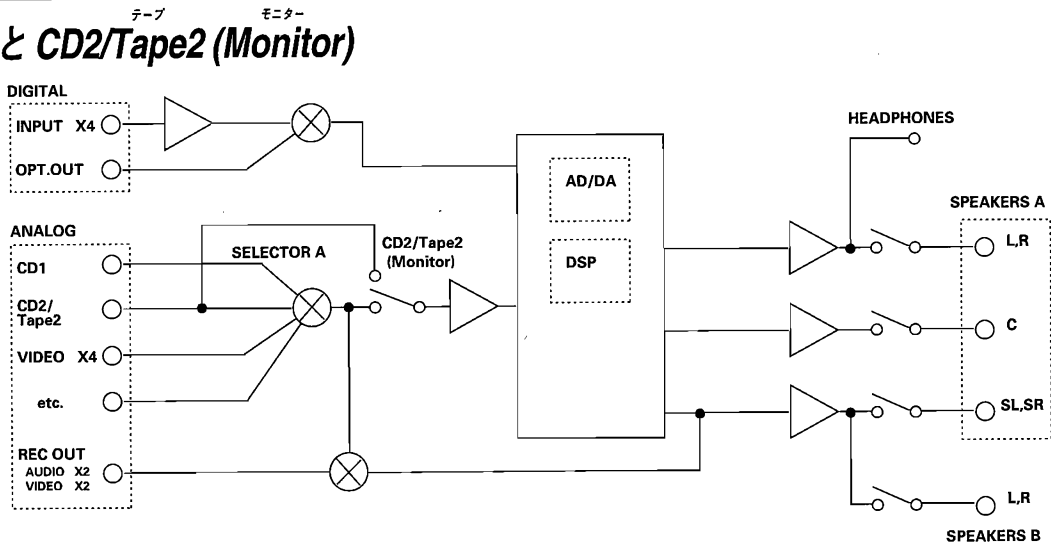
ビデオソースを録音(画)する



- ① 録音(録画)したいソースを選ぶ
- ② ビデオデッキを録音(録画)状態にする
- ③ 再生を開始して、次に録音(録画)を始める

- ^{ビデオ}VIDEO 1端子に接続したビデオに録音(録画)するときには、VIDEO 1以外のソースを選んでください。
- VIDEO 2、3、4 端子に接続したデジタルソースを録音(録画)するには、インプットセレクターで録音(画)する機器を選び、**STEREO** キーを押します。デジタル録音中にボリューム以外のキーを操作すると、音声^{ステレオ}が途切れて録音される場合があります。
- 本機前面の AV AUX 端子は、ビデオカメラ(再生のみ)を接続するのに便利です。
- DTS またはドルビーデジタル(AC-3)のソースを録音(録画)するときには、リスン^{モード}メニュー画面の中で **Stereo** アイコンを選んで、2チャンネルにダウンミックスして録音(録画)します。
- ビデオ機器の操作方法についてはビデオ機器の取り扱い説明書をご覧ください。

入出力と CD2/Tape2 (Monitor)



サラウンド再生を楽しむ

KRF-V7771D (J)

32

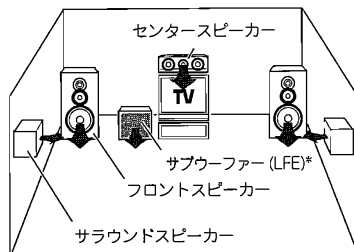
本機は、5種類のサウンドモードを持ち、いろいろな種類の映像ソフトで、臨場感をお楽しみいただけます。ドルビーデジタル (AC-3) サラウンドモードやドルビープロロジックサラウンドモードで、ドルビーデジタル (AC-3) とドルビープロロジックの映像ソフト (ビデオテープやレーザーディスクあるいはDVDなど) を再生すると、映画館にいるようなサラウンド効果が得られます。ドルビー3ステレオモードは、映画などのセリフを画面方向から聞こえるように保ちながら、前面の空間全体に広がりをもつサウンド効果を作ります。DSP (Digital Signal Processor) モードは、PCM 及びアナログのプログラムソースに対して音響環境を再現します。サラウンドモードを最高の状態でお使いいただくため、ご使用前に、「サラウンド再生のためのセットアップ」を完全に行ってください。

- 18 -

サウンドモード

DTS

DTS マルチチャンネル オーディオ フォーマットは、CD、LD、DVD のソフトウェアで利用できます。DTS は完全にデジタルのフォーマットであり、ほとんどの CD、LD または DVD 用プレーヤー内部ではデコードできません。このため、DTS エンコードされたソフトウェアを CD、LD または DVD プレーヤーのアナログ出力で聴こうとすると、ほとんどの場合デジタルノイズが発生します。アナログ出力が高出力パワーアンプに直接接続されている場合は、このノイズは非常にうるさい音になることもあります。この状況避けるにはデジタル再生をするための以下のような対応が必要になります。DTS デジタル サウンド再生をお楽しみいただくには、CD、LD または DVD 用プレーヤーのデジタル出力に 5.1 チャンネル DTS デジタル サラウンドデコーダ システムまたは DTS デジタル サラウンド デコーダ内蔵アンプにかならず接続して御使用下さい。(本レシーバーは DTS デジタルサラウンドデコーダを内蔵しています。)



* このモードではオプションです。

* LFE = Low Frequency Effects の略。このチャンネルは、サブウーファーに、指向性のない低周波数信号を送り、より深みのある低音の音場効果を再現します。DTS には LFE チャンネルがあります。

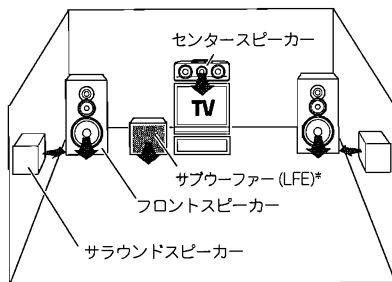
ドルビー デジタル

Dolby Digital (AC-3)

ドルビーデジタル (AC-3) サラウンドモードでは、ドルビーデジタル (AC-3) プログラムソース (DOLBY や DOLBY SURROUND マークの付いたレーザーディスクソフトなど) からの 5.1 チャンネルのデジタル入力を、デジタルサラウンドサウンドでお楽しみいただけます。今までのドルビーサラウンドと比べて、ドルビーデジタル (AC-3) モードは、音質、空間的な広がり、そしてダイナミック域の面で、はるかに優れた効果を演出します。

ご注意

5.1 チャンネルのドルビーデジタル (AC-3) サラウンドサウンドを聴くためには、フロントスピーカー (左右)、センタースピーカー、サラウンドスピーカー (左右)、サブウーファーを接続する必要がありますが、本機はフロントスピーカーだけを接続していても、ドルビーデジタル (AC-3) やドルビープロロジックがプログラムされているソースをお楽しみいただけます。



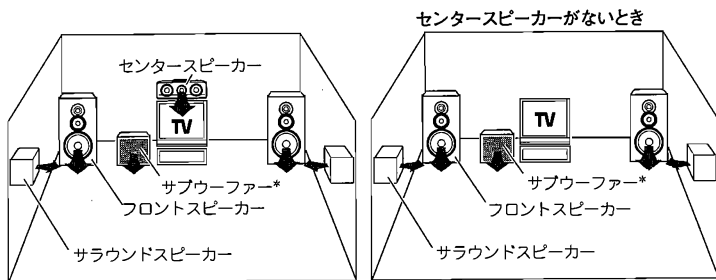
* このモードではオプションです。

* LFE = Low Frequency Effects の略。このチャンネルは、サブウーファーに、指向性のない低周波数信号を送り、より深みのある低音の音場効果を再現します。ドルビーデジタル (AC-3) サウンドトラックは、独立して低周波数チャンネルを持っていますが、サブウーファーを接続すると、他のサラウンドモードにおいても、低音の音質をよくすることができます。

ドルビー プロ ロジック

Dolby Pro Logic

ドルビープロロジックプログラムソースは、特別な方法で記録された 2 チャンネルのサラウンドフォーマットで、DOLBY SURROUND マークの付いたビデオや、レーザーディスクソフトなどがあります。ドルビープロロジックは、ドルビープロロジックプログラムソースからの信号を加工して、映画館にいるようなサラウンド効果を再現するように設計されています。本機は、ドルビープロロジックサラウンドデコーダを搭載し、現在ご利用いただける多量のドルビーサラウンドビデオソフトをお楽しみいただけます。



* このモードではオプションです。

操作編

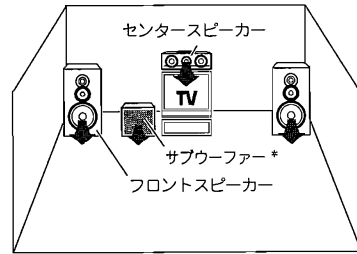


ドルビー ステレオ

Dolby 3 Stereo

ドルビー3ステレオは、サラウンドスピーカーが無いシステムで再生できます。

ドルビー3ステレオは、セリフを画面あたりから聞こえるようにしたまま、前面の音場が広がるようなサウンド効果を演出します。このモードは、ドルビープログラムソースで再生できるように設計されていますが、ドルビープログラムソースでないものにもお使いいただけます。このとき、セリフが聞こえる位置や、音の広がりかたなどの効果が薄いことがあります。

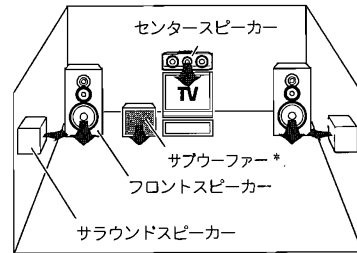


* このモードではオプションです。

モード

DSP mode

DSPモードでは、PCM 及びアナログのソースに対して、劇場やジャズクラブ、屋外スタジアムの雰囲気を作り出します。このモードは、CDやテレビ、FM放送などのステレオのプログラムソースを聴くときに、特に効果があります。コンサートやスポーツ番組を見るときなどに、スタジアムモードやアリーナモードでお楽しみください。



* このモードではオプションです。

ウォール: 音響環境の「透明度」を好みに応じて調節できます。

ルームサイズ: 音響環境の「大きさ」を好みに応じて調節できます。

エフェクトレベル: 音響環境の「臨場感」を好みに応じて調節できます。

* DSPモードでは、モノラルソースからは疑似ステレオのサラウンド効果を再現しますが、劇場やジャズクラブなどの臨場感は弱くなります。

デジタルシアターシステムズからの実施権に基づき製造されています。米国特許番号 5,451,942。外国特許申請中。「DTS」、「DTS Digital Surround」はデジタルシアターシステムズの商標です。著作権 1996年デジタルシアターシステムズ。不許複製。

DIGITAL
dts
SURROUND

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。「DOLBY」、「PRO LOGIC」及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。非公開機密著作物。著作権 1992-1997年ドルビーラボラトリーズ。不許複製。

スピーカーの設置について

サラウンドスピーカーは、座る位置の真横、または少し後ろで、リスナーの耳の位置より1メートルほど上方に設置することをおすすめします。設置についてはへやの形、大きさや個人のお好みに応じて販売店等にご相談下さい。

DSPってなに？

デジタルシグナルプロセッサ (Digital Signal Processor) の略称。音の響きかたは様々な条件によって変化します。DSPプレゼンスモードは、DSPで処理することにより、音楽ソースの音質を損なうことなく、臨場感の決め手となる残響成分(様々な空間における音の響きの要素)を作り出しています。

34 選択可能なサウンドモードについて

ソース信号、ソース機器、レシーバーの入力とサラウンドメニューから選択可能なサウンドモードの関係は次のようになります。

ソース信号	ソース機器	本機の入力	リスン モード Lstn Mode メニューの中で 選択可能なサウンドモード
DTS	CD / LD / DVD *1	デジタル Digital	ステレオ DTS / Stereo
ドルビー デジタル Dolby Digital(AC-3)	DVD	Digital	ドルビー デジタル ステレオ Dolby Digital / Stereo *2
ドルビー デジタル Dolby Digital(AC-3) RF	デモジュレーター LD (DEMODULATOR)	Digital	ドルビー デジタル ステレオ Dolby Digital / Stereo *2
アナログ PCM / Analog	CD / LD / DVD など	アナログ Digital / Analog	プロ ロジック ステレオ ステレオ モード Pro Logic / 3 Stereo / Stereo / DSP mode

*1: dts 対応の機器では、再生できます。ご使用の機器の取扱説明書をご覧ください。

*2: Dolby Digital(AC-3) 入力信号が 2チャンネルまたは 2.1チャンネル の場合は、Pro Logic および 3 Stereo の再生ができます。

サラウンド再生時のご注意

アナログ Analog再生時

- DTS を再生するとノイズが出ます。DTS を再生する前に Input Digital に切り換えてからお使い下さい。

DTS 再生時

- DTS 再生時には Input Analog には切り換えられません。
- DTS を再生する際に、使用する機器の操作手順によってはノイズが出ることがあります。DTS を再生するときは、DTS 表示が点灯してから各操作をして下さい。

DTS モードで再生時の表示

サラウンド 再生状態	入力 信号	パネル面 DTS 表示	リモコンLCD 表示	
			リスン モード Lstn Mode	ステータス Status
DTS	DTS	点灯	DTS	DTS
DTS	Dolby Digital	点滅	DTS	Dolby Digital
DTS	PCM	点滅	DTS	PCM

デジタル (ドルビー デジタル) Digital (Dolby Digital) モードで再生時の表示

サラウンド 再生状態	入力 信号	パネル面 ドルビー デジタル Dolby Digital 表示	リモコンLCD 表示	
			リスン モード Lstn Mode	ステータス Status
Dolby Digital	DTS	点滅	Dolby Digital	DTS
Dolby Digital	Dolby Digital	点灯	Dolby Digital	Dolby Digital
Dolby Digital	PCM	点滅	Dolby Digital	PCM

PCM モードで再生時の表示

サラウンド 再生状態	入力 信号	パネル面 ドルビー デジタル Dolby Digital 表示	リモコンLCD 表示	
			リスン モード Lstn Mode	ステータス Status
PCM	DTS	消灯	*3	DTS
PCM	Dolby Digital	消灯	*3	Dolby Digital
PCM	PCM	消灯	*3	PCM

*3: Pro Logic, 3 Stereo, DSP または Stereo

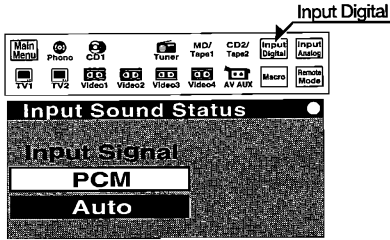
デジタル オート / デジタル マニュアル Digital Auto再生時 / Digital Manual再生時

- サラウンドキーの選択は、入力信号により制約されます。
- Digital Manual での再生後に POWERキーの オン/オフ を切り換える(あるいは ON/STANDBY キー操作によるスタンバイ状態とオン状態の切り換え)、スピーカ-のオン/オフの切り換え、またはインプットセレクターの切り換えをすると Digital Auto へ自動で切り換わります。
- 2/0(2チャンネルまたは 2.1チャンネル) の AC-3 を プロロジック、3ステレオ等で再生する場合、または 2/0(2チャンネルまたは 2.1チャンネル) 以外を ステレオで再生する場合には Digital Manual でお使いください。
- Digital Auto で再生している場合には、DVD、LD の機種によっては、SKIP、STOP等の操作により、入力信号どおりのサラウンド再生に切り換わります。

サラウンド再生

35

1 インプット デジタル オート Input Digital アイコンを選び Auto を表示させる



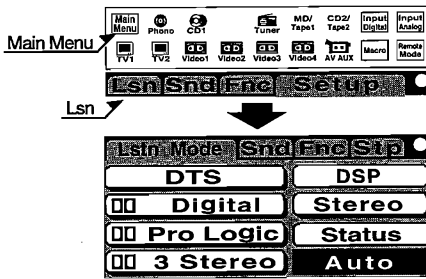
通常は **オート** にして聴きます。 **マニュアル** に設定する際には、前ページのサラウンド再生が可能な状態を確認されたうえで、使用するようにしてください。
Manual に設定した場合は、あるサラウンド状態に固定して使用したり、自分でサウンドモードを選択できます。
 (Manual でサウンドモードを選択するには入力信号があるときに切り換えができます。)

インプット デジタル
 ● **Input Digital** を選ぶと **Input Sound Status** メニュー画面が表示されます。

インプット デジタル
Input Digital を選ぶ度に表示が切り換わります。
 オート マニュアル
 Auto ←→ Manual

- **Input Digital** を操作して **Auto** を点灯させている場合は、ソース機器からの出力信号が **DTS**、あるいは **ドルビーデジタル** から **PCM** へかわっても、自動的に再生モードを切り換えます。
- 本機の入力端子に **デジタル** の入力が接続されていない場合は、**Input Analog** を選択します。

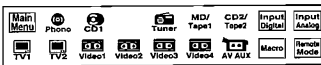
2 リッスン モード Lstn Mode メニュー画面を開く



- ① **Main Menu** アイコンを選ぶ
- ② **Lsn** アイコンを選ぶ

● 手順①で **Manual** を選択したり、**Input Analog** を選択したりしたときは、ここで好みのサウンドモードを選択します。

3 機器の操作画面を出す



セグメント画面の中から再生を希望する機器のアイコンを選ぶ

(例) DVD の再生を希望する際は、**DVD** が **Video3** に割り付けられている場合は **Video3** のアイコンを選びます。

- 「インプットセレクターに機器を割り付ける」の章で割り付けた機器のアイコンを選びます。

-17

4 ソフトを再生する

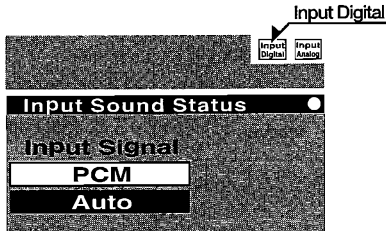
再生する機器のプレイキーを選ぶ

5 音量を調節する

デジタル入力の再生/アナログ入力の再生

ソース機器からの入力信号がデジタルかアナログかに応じて、レシーバー側の入力設定を **Input Digital** または **Input Analog** に切り換えます。

デジタルの入力を再生するとき



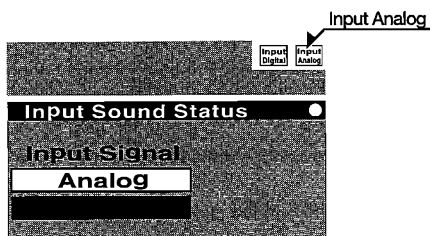
インプット デジタル
Input Digital アイコンを選ぶ

- Input Signal の表示部分に再生されている信号の種類(PCM 等)が表示されます。

通常は **Auto** にして聴きます。**Manual** に設定する際には、「選択可能なサウンドモードについて」でサラウンド再生が可能な状態を確認されたうえで、使用するようにしてください。 - [34]

Manual に設定した場合は、あるサラウンド状態に固定して使用したり、自分でサウンドモードを選択できます。
(**Manual** でサウンドモードを選択するには入力信号があるときに切り換えることができます。)

アナログの入力を再生するとき



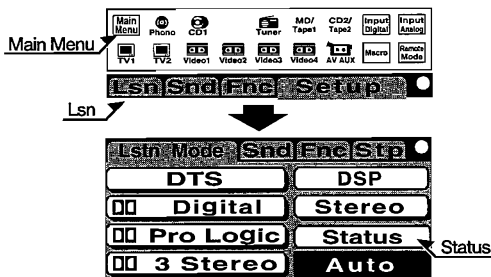
インプット アナログ
Input Analog アイコンを選ぶ

- Input Signal の表示部分に Analog が表示されます。

サラウンド再生の状態を確認する

現在再生している状態の、サラウンドモードと入力信号を表示させることができます。

1 リッスン モード ステータス Lstn Mode メニュー画面を開いて Status アイコンを選ぶ



① **Main Menu** アイコンを選ぶ

② **Lsn** アイコンを選ぶ

- Lstn Mode メニュー画面では現在再生しているサラウンドの状態を表示させることができます。

③ **Status** アイコンを選ぶ

- **Status** アイコンを選ぶと **Input Sound Status** メニュー画面を表示します。

2 インプット サウンド ステータス Input Sound Status メニュー画面の表示



- Input Sound Status メニュー画面では、現在再生している 信号を表示します。

- ドルビーデジタル(AC-3)を再生の時には、ソース機器からの入力信号をL、C、R 等のアイコンで表示します。

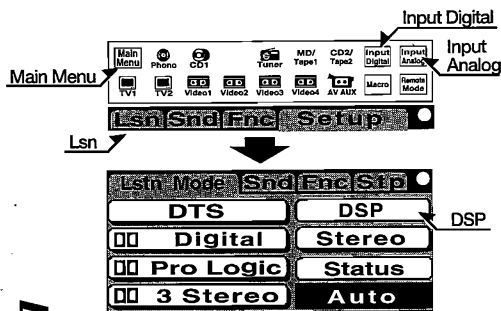
DSP モードでサラウンド効果をかける

37

再生する信号がPCMの場合またはアナログの場合にはDSPモードによる音場効果かけた再生が可能です。

1 音楽を再生する

2 リスン モード Lstn Mode メニュー画面を開いてDSPアイコンを選ぶ



DSPモードによる音場効果かけた再生が可能な条件は、「選択可能なサウンドモード」の項目を参照してください。 - 34

① メインメニュー Main Menu アイコンを選ぶ

② Lsn アイコンを選ぶ

本機の入力端子にデジタルの入力が接続されている場合：

③ セグメント画面の インプット デジタル Input Digital アイコンを選び オート Auto を点灯させる

④ インプット デジタル Input Digital アイコンを選ぶたびにAuto とManual が切り換わります。

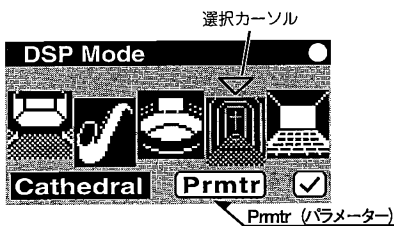
⑤ DSP のアイコンを選択する

本機の入力端子にアナログの入力が接続されている場合：

③ セグメント画面の インプット アナログ Input Analog アイコンを選ぶ

⑤ DSP のアイコンを選択する

3 モード DSP Mode メニュー画面からモードを選ぶ

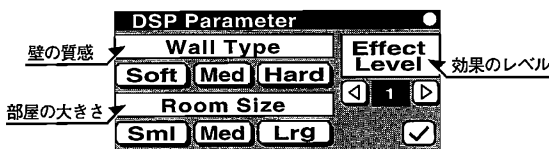


ジョイスティックでカーソルを動かし、お好みのDSPモードでエンターENTERキーを押す

- アリーナ Arena : 屋内のコンサートアリーナの臨場感を再現します。
- ジャズ クラブ Jazz Club : ジャズクラブの臨場感を再現します。
- スタジアム Stadium : 屋外スタジアムの臨場感を再現します。
- カセドラル Cathedral : 天井の高い教会の臨場感を再現します。
- シアター Theater : 映画館の臨場感を再現します。

● DSP 使用時に音を調整する際は、パラメーターPrmtr(Parameter) アイコンを選びます。

4 DSP モードで音を調節する



① モード DSP Mode メニュー画面にて パラメーターPrmtr アイコンを選ぶ

② 調節したい項目を選ぶ

ウォール タイプ Wall Type(壁の質感): Soft (ソフト) : 弾力性がある
Med (ミディアム) : 普通
Hard (ハード) : 堅い

ルーム サイズ Room Size(部屋の大きさ): Lrg (ラージ) : 広い
Med (ミディアム) : 普通
Sml (スモール) : せまい

エフェクト レベル Effect Level : 効果のレベル

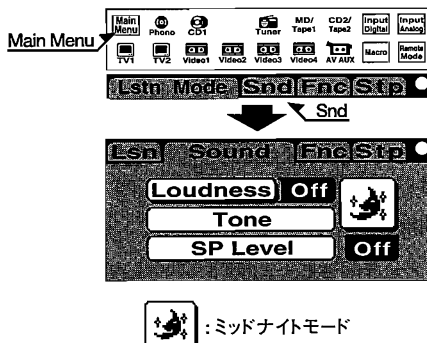
必要に応じて音質や各スピーカーの音量の調節が出来ます。
ソースごと、またはプログラム（映画）ごとによる個々の調節をする際に使用します。

ラウドネスまたはトーンの設定は、左フロントスピーカーと右フロントスピーカーから出る音についてのみ効果がかかります。

ラウドネスまたはトーンの効果は、リスンモードをステレオにしている時に最大の効果がかけられます。

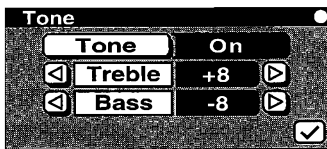
フロントスピーカーを Nml(Normall) に設定してあるときは、低域成分がサブウーファーから出るために、ラウドネスまたはトーンの効果は小さくなります。

1 サウンドメニュー画面を開く



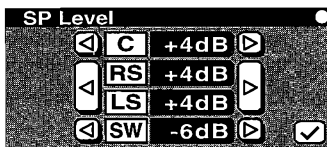
- ① Main Menu アイコンを選ぶ
 - ② Snd アイコンを選ぶ
 - ③ Loudness のオン/オフを選択する
On → Off の順に切り換わります。
 - ④ ミッドナイトモードを設定する
Dolby Digital (AC-3) 時のみ設定できます。
1 → 2 → Off の順にかわります。
- トーン の調節をするときは手順④に進みます。
 - スピーカーレベルを調節するときは手順⑤に進みます。

2 トーンの調節をする



- 手順①で Tone のアイコンを選びます。
- ① Tone On/Off を選択する
 - ② Treble の調節をする
 - ③ Bass の調節をする

3 スピーカーレベルを調節する

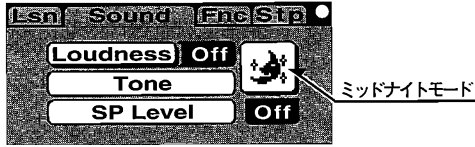


C : センタースピーカー
RS : 右サラウンドスピーカー
LS : 左サラウンドスピーカー
SW : サブウーファー

- 手順①で SP Level アイコンを選びます。
 - 手順②から手順④に戻るには アイコンを選びます。
 - ここで行う各スピーカーの音量調節は一時的な設定になります。本機のオン/オフや入力セレクター等を切り換えると、「セットアップ編」章の中で設定された状態に戻ります。
 - Setup Surround メニュー中の SP Selection メニュー画面、またはスピーカーセレクションメニュー画面で設定をしていないスピーカーは SP Level メニュー画面中で " - - - " と表示されます。
- 各スピーカーレベルを調節する

ミッドナイトモード 1/2/Off (ドルビーデジタル(AC-3)モードのみ)

夜中に映画を見るときなど、音量をあまり上げられないことがあります。このモードを選ぶと、ドルビーデジタル(AC-3)の映像ソフトであらかじめ指定されている部分(急に音量が大きくなるシーンなど)だけを、音声信号レベルの上限から下限の幅を圧縮し、指定されていない部分との音量差を少なくします。これにより、小さな音量でもすべての部分が聴きやすくなります。お好みでお楽しみください。



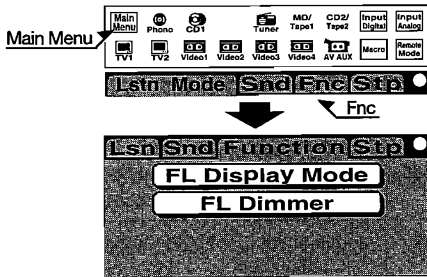
ミッドナイトモードのアイコンを繰り返し選んで設定する

→ 1 → 2 → Off →

- ドルビーデジタル(AC-3)の映像ソフトには、ミッドナイトモードに対応していないものもあります。
- ドルビーデジタル(AC-3)の映像ソフトで指定されていない部分はミッドナイトモードの効果はありません。

FL Dimmer、FL Display について

Functionメニュー画面を開く



① Main Menu アイコンを選ぶ

② Fnc アイコンを選ぶ

FL Dimmer の設定

③ FL Dimmer アイコンを選ぶ

- アイコンを選ぶたびに本体表示管の明るさがわかります。

FL Display Mode の設定

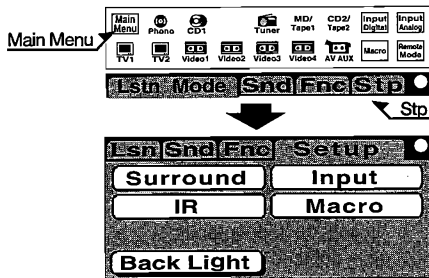
③ FL Display Mode アイコンを選ぶ

- アイコンを選ぶたびに表示がわかります。

→ 接続機器 アナログ/デジタル 表示 → 入力端子：接続機器 表示 → リッスンモード表示 →
 (例) DVD DGTL (例) VIDEO3: DVD (例) DOLBY DIGITAL
 (VIDEO3 DGTL) (VIDEO3:)

()内は接続する機器が割り付けられていないときの表示です。

バックライトについて



リモコン表示部の照明をオン/オフします。

① Main Menu アイコンを選ぶ

② Stp アイコンを選ぶ

③ Back Light アイコンを選ぶ

- アイコンを選ぶたびに照明がオン/オフします。
- 電池の消耗を防ぐために、通常はバックライトを消してお使いください。



マイコンをリセットするには

本機がオン状態での接続コードの抜き差しや、あるいは外部からの要因により、マイコンが誤動作(操作できない、ディスプレイの誤表示など)することがあります。この場合、次の手順をお試しください。マイコンがリセットされ、通常の状態に戻ります。

- ① ^{パワー}POWER スイッチをオフにする
- ② ^{オン}1 / ^{スタンバイ}⏻(ON/STANDBY)キーを押しながら ^{オン}POWER スイッチを再びオンにする

●リセットにより、各種の記憶内容は消滅し、工場出荷時の状態となります。ご了承ください。

アンプ部

症 状	原 因	処 置
音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 接続コードのコネクターがはずれている。 ● MUTEがオンになっている。(MUTE表示が点滅) ● CD2/Tape 2 (Monitor)がオンになっている。 ● 選んでいるサラウンドモードが入力信号にあっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「接続のしかた」をみて正しく接続し直す。 →5 ● MUTEをオフにする。(リモコン及び本体) ● リモコンのCD2/Tape 2アイコンを選んでCD2/Tape 2 (Monitor)をオフにする。 →30 ● 入力信号に合ったサラウンドモードを選ぶまたは、Input DigitalでDigital Autoを選ぶ。 →34
スタンバイインジケータが点滅し、音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ● スピーカーコードがショートしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 一時 ACコードを抜き、ショートを取り除き、再度 ACコードを差す。 →10
スピーカーの片側から音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ● スピーカーコードが外れている。 ● 接続コードのコネクターがはずれている。 ● 接続コードが断線している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「スピーカーの接続」に従って正しく接続する。 →10 ● 「接続のしかた」をみて正しく接続し直す。 →5 ● 接続コードを取りかえる。
サラウンドスピーカーまたはセンタースピーカーから音が出ない、または音が小さい。	<ul style="list-style-type: none"> ● サラウンドスピーカー、センタースピーカーが接続されていない。 ● サラウンドモードになっていない。 ● サラウンドレベル、およびセンターレベルが最小になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「スピーカーの接続」に従って正しく接続する。 →10 ● サラウンドモードにする。 →34 ● サラウンドレベル、およびセンターレベルを調整する。 →19
入力切り換えをPHONOにするとブーンという音がする。	<ul style="list-style-type: none"> ● プレーヤーのオーディオコードがPHONO端子にしっかりと差し込まれていない。 ● プレーヤーのアース線が接続されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● オーディオコードをPHONO端子に完全に差し込む。 ● アース線を背面のGND端子に接続する。
DVD プレーヤーで AC-3 のソースの再生を始めると最初の音がとぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ● DVDプレーヤーの種類によって、いろいろな原因がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● DVDプレーヤーのなかには、最初の音がとぶものがある。
DVD を再生しても、音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> ● "Auto" に設定していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● "Input Digital" の設定を"Auto" にする。 →36
ドルビーデジタル (AC-3) のソースをデジタル再生できない。	<ul style="list-style-type: none"> ● "Auto" に設定していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● "Input Digital" の設定を"Auto" にする。 →36
DTS を再生するとノイズが出る。	<ul style="list-style-type: none"> ● "Input Analog" になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● "Input Digital" の設定を"Auto" にする。 →36
システムコントロールがきかない。	<ul style="list-style-type: none"> ● システムコントロールコードの接続が不完全。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「接続のしかた」をみて正しく接続し直す。 →5

チューナー部

症 状	原 因	処 置
放送局が受信できない。	<ul style="list-style-type: none"> ● アンテナを接続していない。 ● 放送バンドが合っていない。 ● 受信したい放送局の周波数に合っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● アンテナを接続する。 →11 ● 放送バンドを合わせる。 →28 ● 受信したい放送局の周波数に合わせる。
雑音が入る。	<ul style="list-style-type: none"> ● 自動車のイグニッションノイズ。 ● 電気器具の影響によるもの。 ● テレビが近くにある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 外部アンテナを道路から離して設置する。 ● 電気器具の電源を切ってみる。 ● テレビから離す。
プリセットしたあと、数字キーを押しても受信できない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 長い間、電源コンセントを抜いていたため、メモリーが消えてしまった。 ● セレクターがチューナーになっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● もう一度メモリーする。 →29 ● セレクターをチューナーにする。

リモコン部

症 状	原 因	処 理
リモコンで操作できない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 電池切れ。 ● 操作する位置が遠すぎる、角度がずれている。または障害物がある。 ● オーディオコードおよび、システムコントロールコードが正しく接続されていない。 ● 再生しようとする機器に、テープ、ディスクが入っていない。 ● "IR RECEIVER" がオンに設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新しい電池に入れ換える。 - 14 ● 操作範囲内で操作する。 - 13 ● 「接続のしかた」をみて正しく接続し直す。 - 5 ● 再生しようとする機器に、テープ、ディスクを入れる。 ● DISPLAY MODE キーで"IR RECEIVER" をオフにする。 - 9
リモコンの表示がでない。	<ul style="list-style-type: none"> ● 電池が消耗している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新しい電池と交換する。 - 14
リモコンの表示が異常になる。	<ul style="list-style-type: none"> ● 表示しているときに電池を外した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 警告の表示がでたあと電池を外して再度取り付ける。

メモリーバックアップ

本機に通電されていない状態にしてから、約3日ほど経過すると、以下の内容が消え初期状態になりますのでご注意ください。

- 入力切換の設定が消え、チューナーとなる。
- 周波数の設定が消え、76.0MHzとなる。
- ボリューム設定が消え、-66dBとなる。
- プリセット放送局の設定が消える。
- 受信バンド設定が消え、FMとなる。
- サラウンドの設定が初期状態となる。

メンテナンス

- 前面パネル、ケースなどが汚れたときは、柔らかい布でからぶきます。シンナー、ベンジン、アルコールなどは変色の原因になることがありますので、ご使用にならないでください。
- 接点復活剤は、故障の原因となることがありますので、ご使用にならないでください。とくにオイルを含んだ接点復活剤は、プラスチック部品を変形させることがあります。

ステレオ音のエチケット

楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分いたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご利用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。



セットアップコード表

KRF-V7771D [J]

42

テレビセットアップコード

#1***

メーカー名	セットアップコード
Barco	1425, 1494
Crown	1054, 1195
Denon	1160
Fujitsu	1194
Funai	1194, 1195
GE	1036, 1042, 1162, 1066, 1070, 1193, 1297, 1466
GoldStar	1034, 1045, 1054, 1193
Hitachi	1071, 1160, 1166
JVC	1068

メーカー名	セットアップコード
Kenwood	1034, 1045
Matsushita	1265
Mitsubishi	1034, 1108, 1165, 1193
NEC	1034, 1045, 1071
Orion	1251
Panasonic	1066, 1070, 1265
Philips	1069
Pioneer	1181
Proscan	1062
RCA	1033, 1034, 1062, 1105

メーカー名	セットアップコード
Runco	1032, 1045
Samsung	1034, 1045, 1054, 1071, 1075, 1193, 1442
Sanyo	1169, 1174
Sharp	1054, 1108, 1180, 1506
Sony	1015
Technics	1066, 1265
Toshiba	1075, 1169, 1171
Victor	1068

ビデオデッキセットアップコード

#4***

メーカー名	セットアップコード
Aiwa	4015, 4052, 4332, 4421
Akai	4056, 4330
Denon	4057
Fuji	4048, 4050
Funai	4015
GoldStar	4052, 4053
Hitachi	4056, 4057
JVC	4023, 4056, 4082
Marantz	4050, 4096

メーカー名	セットアップコード
Matsushita	4050, 4177, 4469
Mitsubishi	4058, 4082, 4188
NEC	4053, 4056, 4082, 4119
Orion	4310
Panasonic	4050, 4177, 4469
Philips	4050, 4096
Pioneer	4082
Samsung	4060, 4255
Sansui	4056, 4082

メーカー名	セットアップコード
Sanyo	4061, 4062, 4119, 4255
Sharp	4063
Shintom	4087
Sony	4047, 4048, 4049, 4050
Teac	4015, 4056
Technics	4050, 4177
Toshiba	4058, 4060, 4081

LDプレーヤーセットアップコード

#5***

メーカー名	セットアップコード
Hitachi	5038
Kenwood	5273
Marantz	5209

メーカー名	セットアップコード
Mitsubishi	5074
Panasonic	5219
Philips	5209

メーカー名	セットアップコード
Pioneer	5038, 5074
Sony	5216

その他

DVDプレーヤーセットアップコード

#6***

メーカー名	セットアップコード
Kenwood	6549
Mitsubishi	6536
Panasonic	6505

メーカー名	セットアップコード
Philips	6554
Pioneer	6540
Sony	6548

メーカー名	セットアップコード
Toshiba	6518

DATデッキセットアップコード

#7***

メーカー名	セットアップコード
Marantz	7173

メーカー名	セットアップコード
Philips	7173

メーカー名	セットアップコード
Sony	7108

カセットデッキセットアップコード

#7***

システムコントロール接続されたケンウッド製カセットデッキの場合 7990

メーカー名	セットアップコード
Aiwa	7044, 7212
Denon	7091
JVC	7259, 7288, 7289
Kenwood	7086, 7198, 7249
Marantz	7044

メーカー名	セットアップコード
Onkyo	7151
Philips	7044
Pioneer	7042, 7235
Sansui	7044
Sony	7185, 7258, 7306

メーカー名	セットアップコード
Teac	7323, 7324
Technics	7244
Victor	7288, 7289
Yamaha	7109, 7112

CDプレーヤーセットアップコード

#8***

システムコントロール接続されたケンウッド製CDプレーヤーの場合 8990

メーカー名	セットアップコード
Aiwa	8139, 8172
Hitachi	8047
JVC	8087, 8670
Kenwood	8043, 8052, 8063
	8205, 8873, 8874
Krell	8172
Linn	8172
Marantz	8044, 8172

メーカー名	セットアップコード
Onkyo	8116
Panasonic	8044
Philips	8172
Pioneer	8047, 8320, 8483
Rotel	8172
Sansui	8172, 8320
Sanyo	8194
Sharp	8052

メーカー名	セットアップコード
Sony	8015, 8200, 8619
	8620
Teac	8408
Technics	8044, 8318
Victor	8087
Yamaha	8051, 8202

MDプレーヤーセットアップコード

#9***

システムコントロール接続されたケンウッド製MDプレーヤーの場合 9990

メーカー名	セットアップコード
Kenwood	9841

メーカー名	セットアップコード
Sony	9505

Non-IRコードについて

登録したい機器のセットアップコードが見つからなかった場合、またはセットアップコードを入力したけれども動作しない場合は“Non-IRコード”を入力してください。本機のインプットセクターで操作したい機器を選び、各機器のリモコンで操作することができます。

CDプレーヤー	8998
カセットデッキ	7998
LDプレーヤー	5998

Phono (フォノ)	0998
テレビ	1998
ビデオデッキ	4998

DVDプレーヤー	6998
MDプレーヤー	9998

登録した機器のセットアップコードを消去したい場合

登録してある機器をレシーバーからはずしたり、違う機器にかえたいときなどは、登録したセットアップコードを消去する必要があります。この場合は、消去したい機器が接続してあるインプットセクターを選んで、9999を入力します。

- 17



各セットアップコードは多数の機器で動作するように設計されていますが、機器によっては動作しないものもあります。(また、コードによっては、利用できる機能のうち、いくつかしか操作できないものもあります。)
機器によっては、ENTERキーをしばらく押すようにしてください。

45

20

オーディオ部

ステレオモード

定格出力 (EIAJ) 120 W + 120 W
 (20 Hz ~ 20 kHz、0.06%、4 Ω)
 実用最大出力 180 W + 180 W (EIAJ、4 Ω)

サラウンドモード

最大出力
 フロント 130 W + 130 W (1 kHz、10%、4 Ω)
 100 W + 100 W (1 kHz、0.7%、4 Ω)
 センター 130 W (1 kHz、10%、4 Ω)
 100 W (1 kHz、0.7%、4 Ω)
 サラウンド 130 W + 130 W (1 kHz、10%、4 Ω)
 100 W + 100 W (1 kHz、0.7%、4 Ω)

全高調波歪率 0.005 % (1 kHz、60W、4 Ω)

周波数特性 (IHF '98)

CD 5 Hz ~ 80 kHz、+0.5 dB、-3 dB

SN比

PHONO (MM) 77 dB (IHF '66)
 CD 93 dB (IHF '66)

入力端子 (感度 / インピーダンス)

PHONO (MM) 2.5 mV / 47 kΩ
 CD 200 mV / 47 kΩ

出力端子 (レベル / インピーダンス)

TAPE REC 200 mV / 2.2 kΩ
 プリアウト (センター・サラウンド・
 サブウーファー) 1 V / 1 kΩ

トーンコントロール特性

BASS ±7 dB (100 Hz)
 TREBLE ±7 dB (10 kHz)

ラウドネスコントロール特性

(ボリューム -40 dB) +7 dB (100 Hz)、+4 dB (10 kHz)

デジタル部

対応サンプリング周波数 32 kHz、44.1 kHz、48 kHz

入力端子 (感度 / インピーダンス)

オプティカル -15 dBm ~ -21 dBm、660 nm ±30 nm
 コアキシャル 0.5 Vp-p / 75 kΩ

ビデオ部

信号方式 NTSC 方式

入力端子 (感度 / インピーダンス)

VIDEO (コンポジット) 1 Vp-p / 75 kΩ
 S VIDEO (輝度信号) 1 Vp-p / 75 kΩ
 (色信号) 0.286 Vp-p / 75 kΩ

出力端子 (レベル / インピーダンス)

VIDEO (コンポジット) 1 Vp-p / 75 kΩ
 S VIDEO (輝度信号) 1 Vp-p / 75 kΩ
 (色信号) 0.286 Vp-p / 75 kΩ

FM チューナー部

受信周波数範囲 76 MHz ~ 90 MHz
 アンテナインピーダンス 75 Ω 不平衡
 実用感度 (モノラル) 1.6 μV (75 Ω) / 15.2 dBf
 (75 kHz DEV. SINAD 30 dB)

高周波ひずみ率 (1 kHz)

モノラル 0.6 %
 ステレオ 0.7 %

SN比

モノラル 75 dB
 (75 kHz DEV.、1 kHz、65 dBf 入力時)
 ステレオ 68 dB
 (75 kHz DEV.、1 kHz、65 dBf 入力時)

実効選択度 (±400 kHz) 50 dB

ステレオセパレーション (1 kHz) 36 dB

周波数特性 30 Hz ~ 15 kHz、+0.5 dB、-3.0 dB

AM チューナー部

受信周波数範囲 531 kHz ~ 1,602 kHz
 実用感度 (30 %mod.、S / N 20 dB) ... 18 μV (600 μV / m)
 SN比 (30 %mod.、1 mVインプット)

モノラル 48 dB
 ステレオ 38 dB

ステレオセパレーション (1 kHz) 30 dB

電源部・その他

定格消費電力 (電気用品取締法に基づく表示) 270 W

△ AC コンセント

連動コンセント 2 (最大合計 90 W)

最大外形寸法 幅 : 440 mm

高さ : 162 mm

奥行 : 391 mm

重量 (正味) 11.2 kg



これらの定格およびデザインは、技術開発に伴い予告なく変更することがあります。

保証書 (別途添付)

この製品には、保証書を (別途) 添付しております。保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめの上、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間

保証期間は、お買い上げの日より1年間です。電池や、一部の消耗部品の交換、ならびに落下、水没など、不適切なご使用による故障の場合は、保証期間内でも有料となります。詳しくは保証書をご覧ください。

修理に関するご相談ならびにご不明な点は

修理に関するご相談ならびにご不明な点は、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービスセンター、サービスステーション、営業所へお問い合わせください。

(お問い合わせ先は、添付の“ケンウッドサービス網”をご覧ください)

補修用性能部品の最低保有期間

ステレオの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後、8年間です。この期間は、通省産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

シリアル番号について

システム商品の各機器に製造シリアル番号がつけられておりますが、保証書にはシステム管理用として、別のシリアル番号が印刷されています。付属の保証書で、お買い上げのシステム機器 (基本システム) すべての保証修理が受けられます。

修理を依頼されるときは

“故障かな?と思ったら”に従って調べていただき、なお異常があるときは、製品の使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービスセンター、サービスステーション、営業所にお問い合わせください。

この製品の故障・誤動作・不具合などによって発生した次に掲げる損害などの付随的損害の補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

- お客様または第三者がテープ・ディスクなどへ記録された内容の損害
- 録音・再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

保証期間中は

保証期間中は保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービスセンター、サービスステーション、営業所が修理をさせていただきます。

修理に際しましては保証書をご提示ください。

保証期間が過ぎているときは

保証期間が過ぎているときは、修理すれば使用できる場合には、ご希望により有料で修理させていただきます。

出張修理 / 持込修理

「出張修理」、「持込修理」のどちらが適用されるかは機種によって異なります。保証書の記載をご確認ください。出張修理を依頼されるときは、次のことをお知らせください。

- 製品名
- 製造番号 (Serial No.)
- お買い上げ年月日
- 故障の症状 (できるだけ具体的に)
- ご住所 (ご近所の目印等も併せてお知らせください)
- お名前、電話番号、訪問ご希望日

修理料金の仕組み (有料修理の場合は、つぎの料金をいただきます)

- 技術料: 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費や、一般管理費等が含まれます。
- 部品代: 修理に使用した部品の代金です。その他、修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料: 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金および通行料金をいただく場合があります。

お買い上げ店名

電話 ()

KENWOOD

株式会社 ケンウッド

〒150-8501 東京都渋谷区道玄坂 1-14-6

- 商品、商品の取り扱いに関するお問い合わせは、お客様相談室をご利用ください。
お客様相談室（東京）電話（03）3477-5335 〒153-0042 東京都目黒区青葉台 3-17-9
（大阪）電話（06）357-5335 〒534-0024 大阪市都島区東野田町 1-20-5（大阪京橋第一生命ビル）
- アフターサービスについては、お買い上げの販売店か、または、別紙「ケンウッド全国サービス網」をご参照のうえ、最寄りのサービスステーション、各営業所にご相談ください。